

・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・天候不順が続いているため、客の気持ちが高く、外出を控えている様子がうかがえるが、夏に向けて今まで抑えていた気持ちが徐々に晴れてくることになる。		
		商店街（代表者）	・商店街最大のイベントの集客効果に加えて、高速道路無料化実験により道央からの客が立ち寄り拠点として当市を利用することになり、販売量の増加が見込まれる。また、ホテルなどのサービス業でも売上の増加が見込まれる。		
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・当店は昆布小売専門店だが、昆布のようなどうしても必要というものではない商品でも売上が2～3%伸びてきている。特に美容と健康に良い商品が売れ出していることから、今後についてはやや良くなる。		
		百貨店（販売促進担当）	・グループ全店でみても、前年並み又は微増まで売上が回復傾向にある。ただし、直近の株価低下による影響が懸念される。		
		家電量販店（経営者）	・夏商戦のテレビ需要がおう盛になることが見込まれる。		
		観光型ホテル（経営者）	・首都圏や関西圏のシティホテルでは、ビジネス利用が高まってきていることから、今後について期待できる。ただ、個人消費につながるかは不透明である。また、当地では、会議等の団体利用、いわゆるリゾートMICEが少し戻ってきている。		
		観光型ホテル（スタッフ）	・寒さからも抜け出して、ようやく観光気分が出てきた模様であり、宿泊予約が回復基調にあることから、今後についてはやや良くなる。		
		タクシー運転手	・前年と比較すると、若干ではあるが売上が伸びている。これから観光シーズンになり、天候に恵まれることになれば、今よりも景気が良くなる。		
		通信会社（企画担当）	・データ通信事業の販売が好調であり、夏商戦キャンペーンが更に販売を押し上げることになる。		
		パチンコ店（役員）	・様々な要因が考えられるが、現在の経済環境下での消費に対する考え方が落ち着いてきたことから、過去3か月を底と仮定すると、今後についてはやや良くなる。		
		変わらない	変わらない	商店街（代表者）	・景気が落ち着きを取り戻したと言われているが、雇用環境や所得が改善されたとは思えないことから、今後も踊り場状態が続く。
				商店街（代表者）	・夏の気温がどこまで上がるかにもよるが、夏のセールが前倒しで6月から始まるなかで、夏物が7～8月のどこまで消費を引っ張ることができるかに不安がある。
				商店街（代表者）	・政府がもめている状況において、消費者としては景気が良くなるのか、悪くなるのか、分からない状態にあるため、今後についても様子見の状況が続く。
				一般小売店〔酒〕（経営者）	・先月は下げ止まった感があったが、今月はまた前年を下回っている状況にあり、一進一退の状況が続いている。そのため、今後しばらくは現在の状況が続く。
百貨店（売場主任）	・5月に入り、前年比96%前後で売上が推移している。食品が好調なもの、衣料品を始めとした他分野は苦戦していることから、今後についても変わらない。				
百貨店（販売促進担当）	・ギリシャ財政危機以来、株価が低迷しており、回復基調にあった景気に水を差す形になっているため、今後2～3か月は一時足踏み状態となる。				
百貨店（役員）	・顧客の価格志向が継続していることから、今後についても変わらない。				
スーパー（店長）	・競合店の閉店から1年が経過するため、今後の売上の推移は不透明な状況にある。				
スーパー（店長）	・売場では、今までのような低価格一辺倒から、少し良い物へという動きが増えているが、景気の回復にはまだ時間が必要とみられる。子ども手当も消費に出回る割合は低いことが見込まれるため、今後についても変わらない。				
スーパー（企画担当）	・子ども手当や高校授業料の無償化など、政府による施策の効果がじわりと出てきそうだが、参議院選挙の結果次第で、再び政局が不安定になる可能性もあることから、将来への安心を確保しようとするため、消費に弾みが付かない。				

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（役員）	・既存店全体での売上は、引き続き前年比103%前後で推移しており、やや上のランクの商品の動きも良くなってきているが、冷夏予想により、前年と同様に農家の減収が心配されるため、先行き不安から現状維持が続く。
		スーパー（役員）	・気温の低い日が続いており、夏物商材の動きが良くない。炭酸飲料や乾めんなどは前年の9割程度の状態である。今後については、冷夏の予報も出ているため、引き続き夏物行楽商材の動きに期待が持てない。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数も買上単価も低いまま推移している。桜の開花も遅れ、地方の祭りもタイミングを失うなど、財布の面だけではなく、気持ちの面でも何かを買おうという盛り上げに欠ける状態にあることから、今後についても変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・客単価低下の動きから、景気低迷の流れが継続している。また、中期予報から天候のマイナス影響が続く見込みであるため、今後については変わらない。
		衣料品専門店（店長）	・あまり変わったことも起きないため、今後も当分の間は今のよう流れで推移する。
		家電量販店（店長）	・現状ではエコポイント制度による特需に代わる柱が見付からないため、今後についても変わらない。各社では、オール電化への取組に励んでいるが、すぐに実績にはつながらない。
		家電量販店（地区統括部長）	・今年一杯は、エコポイント制度によりテレビや冷蔵庫といった大物家電の需要が期待されるが、その他の商品が前年を下回り、全体としては、ほぼ横ばいの状態で推移する。
		高級レストラン（スタッフ）	・ゴールデンウィークの反動による減少状況がいつまで続くのか、先が読めない。その上、観光客の飲食費減少にも歯止めがかからず、不安が続く。
		観光型ホテル（経営者）	・予約状況は好転しつつあり、来客数は例年並みに戻りつつあるが、依然として低単価商品のシェアが高く、売上の増加にはつながりにくい。
		旅行代理店（従業員）	・円高傾向にあることから、海外旅行の先行受注に期待できるものの、法人の国内旅行の低迷が今後も続く。
		旅行代理店（従業員）	・先行受注額を前年比でみると、6月は国内旅行が97%、海外旅行が79%、7月は国内旅行が107%、海外旅行が126%となっており、7月以降に回復の兆しが見えるが、現段階では確信にまでは至らない。アイスランドの火山噴火やギリシャ財政危機等の影響でキャンセルが出ている欧州方面やタイの政情不安等もあり、今後どのような展開になるのか不透明な部分がある。
		旅行代理店（従業員）	・すでに夏場の旅行が発売になっているが、申込に伸びがみられない。また、現在発売中のコースに廉価版が出るのを待つ声も聞こえてくることから、今後についても変わらない。
		タクシー運転手	・タクシー適正化・活性化法の元で、タクシーの減車が進み、少しずつタクシー車両数が減ることになるが、その効果が出るにはまだまだ時間がかかる。
		観光名所（役員）	・アジアからの観光客はますますで推移しているが、国内客については、底を打った感はあるものの、なかなか持ち直しの気配が見えないことから、先行きについてはいまだ不透明である。
美容室（経営者）	・当分は良くも悪くもならない雰囲気漂っているため、現状維持の状態が今後も続く。		
やや悪くなる		百貨店（売場主任）	・気象の3か月予報が出たが、6～8月は冷夏ということから、夏物の動きが厳しくなることが見込まれる。単価も低下している動きがみられることから、今後については、売上の厳しい状況が続く。口蹄疫の影響でイベントの中止等がみられることも痛手となる。
		スーパー（店長）	・今後も自社競合と他店の売出し攻勢により、顧客の分散化が激しくなる。
		スーパー（企画担当）	・今年の夏は記録的な冷夏になるとの予測があることから、涼味商材や水物を中心に動きがかなり鈍くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・天候不順が続く、客自体の消費マインドが低迷していることから、今後についてはやや悪くなる。また、たばこの増税が発表されてからは、たばこの売上が減少傾向にあり、早くも節煙している様子が見える。
		乗用車販売店（営業担当）	・地場産業に向上の兆しが見当たらないことから、今後についてはやや悪くなる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・石油製品の価格が上昇していることから、今後も販売量の落ち込みが継続する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（スタッフ）	・夏のシーズンを控えて宿泊予約が増えているが、単価が低下傾向にあり、レストランも低単価のメニューが人気となっていることから、売上には直結しない。
		旅行代理店（従業員）	・口蹄疫の影響で大会・イベント等がキャンセルになっており、今後の影響拡大が懸念される。
		タクシー運転手	・電話注文や来客数の増える要因が見当たらないことから、今後についてはやや悪くなる。
		観光名所（職員）	・5月の施設利用者は前年比71.9%となっており、今後も国内旅行者及び台湾人・韓国人旅行者の減少が見込まれる。また、依然として景気は低迷しており、朝鮮半島の情勢や参議院選挙など、先行きが不透明なことから、観光施設利用者の増加は見込めない。
		住宅販売会社（経営者）	・住宅版エコポイントの効果は限定的であり、リフォーム等にしか効果がみられず、新築等にはほとんど影響ないことから、今後についてはやや悪くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・在庫処分のために大幅な値引きをした業者があり、マンション価格の下落が続いている。そのため、客から更なる値引きを要求されるようになっている。適正な利益を確保できる事業が少なくなってきたことから、今後についてはやや悪くなる。
		悪くなる	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	家具製造業（経営者）	・日本の住関連産業分野は、いまだに他の先進国と比べて未成熟な段階にあるが、すでに世界トップの座にある、衣料・食料分野が伸び悩むなかで、百貨店等では今後の大きな成長が期待できるリビング関連に力を入れ始めている。そのため、今後についてはやや良くなる。
		その他非製造業 [鋼材卸売]（役員）	・今後の仕事量の増加が見込まれる。
	変わらない	食料品製造業（団体役員）	・輸入水産加工原料の高騰から、製品価格への転嫁を行わなければならない状況にあるため、今後も厳しい状況が続く。
		食料品製造業（役員）	・今後2～3か月先に受注量の増加が見込めるような案件が見当たらない。
		金属製品製造業（経営者）	・まだ世の中の動きがはっきり良くなっているとは思えないため、今後も変わらない。
		金属製品製造業（役員）	・2～3か月前と比べて、住宅の建築確認申請件数の伸びに勢いがいいことから、今後の住宅着工件数に変化はみられず、変わらないまま推移する。
		輸送業（営業担当）	・原油価格がじわじわと上がっているが、現時点では、船運賃、トラック運賃に影響が出ていないことから、今後も変わらない。
		輸送業（支店長）	・今年度以降、公共事業が相当減ると言われているなかで、建築物も今年は大きな物件がないため、上期については、あまり大きな荷動きが期待できない。
		通信業（営業担当）	・前年度の第4四半期後半から現在にかけて、販売量が復調傾向にある一方で、単価は小幅ながら低下傾向が続いている。このため、今後の景気上昇には何らかの起爆剤が必要であるが、政府からの効果的な景気刺激策も聞こえず、民需の更なる浮揚は期待できないため、この先しばらくは現状維持、横ばいの状態が続く。
		金融業（企画担当）	・政策効果の一巡で、総じて景気は横ばいでの推移となる。特に建設業界は厳しいことが見込まれる。住宅投資は、住宅版エコポイントの導入でリフォームが上向く。個人消費は、子ども手当が支給されても消費には回らず、夏季賞与の抑制から弱含みで推移する。観光関連は、中国人観光客の増加が見込まれるが、道内観光客及び国内観光客が伸び悩む。
		司法書士	・政情不安、口蹄疫等の問題、天候の不安定、参議院選挙など、景気回復に直結するような材料が見当たらない。
		その他サービス業 [建設機械リース]（支店長）	・良くなる要因が見当たらないため、今後についても変わらない。
	やや悪くなる	建設業（従業員）	・参議院選挙や政情不安の影響で、補正予算による新たな公共事業の執行が不透明であり、民間の事業も越年工事を発注するほどの投資力は見込めないことから、今後の建設業界の景気浮揚は見込めない。
		その他サービス業 [建設機械レンタル]（総務担当）	・公共事業発注量の減少が見込まれるため、今後についてはやや悪くなる。
	悪くなる		
雇用	良くなる	-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人数が前年と比較して約8%増加していることから、今後についてはやや良くなる。特に輸出こん包用製材の求人伸びが感じられる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・建設業にやや底を打った感がある。また、個人消費の1つの指標となる飲食業では、週末の営業日に活気がみられ始めており、上向きになってきている。これらのことから、景気復調の兆しが感じられるため、今後についてはやや良くなる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・これまで広告を抑制気味だったクライアントも、景気の若干の上向きを受けて、積極的に人材確保に走る様相があり、来月以降も期待できる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・前年は流通業において中途社員、パート・アルバイトのニーズが増加していたが、今年はその勢いが無い。派遣市場においても、販売職、一般職とも、ニーズが減少傾向にあり、今後の景気回復の兆しが見えない。
		人材派遣会社（社員）	・依然として、求人が増えてきている傾向がみられず、回復しているようには感じないため、今後についても変わらない。
		職業安定所（職員）	・新規求職申込件数が2.3%減少し、2か月ぶりに前年を下回ったが、月間有効求職者数は0.9%増加し、20か月連続で前年を上回ったことから、今後も変わらず推移する。
		職業安定所（職員）	・新規求人数に明確な伸びがみられないため、今後も変わらない。
職業安定所（職員）		・新規求人は欠員補充が多く、まだ企業の生産拡大局面には向かっていない。雇用に関する明るい材料が見当たらないため、今後も変わらない。	
学校〔大学〕（就職担当）		・民間発表の大卒求人倍率をみると、求人倍率が前年の1.62倍から1.28倍に低下している。また、求人総数が前年比で20ポイント弱の減少となっているが、北海道の求人総数は、この数値をはるかに上回っていることが、企業との情報交換でうかがえる。勤務地について、北海道にこだわりを持つ学生が相変わらず大勢を占めることから、道内企業の求人が一段落するなかで、隔年採用等を行う企業の新卒求人に期待したいが、全体としては変わらないまま推移する。	
やや悪くなる	-	-	
悪くなる	-	-	

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	商店街（代表者）	・東北新幹線延伸のカウンタダウンイベントが始まり、観光業や飲食業などでの動きが活発になってくる。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・健康や美容関連商品の売上が安定しており、子ども手当の支給が消費につながるため、販売量の増加が期待できる。
		百貨店（企画担当）	・製造業を中心とした設備投資などで経済に動きがあるため、中元商戦の盛り上がり期待している。
		百貨店（営業担当）	・必要な物は多少高価な商品でも購入する消費者が増えており、話題の商品や価値のある商品の動きが良くなっている。
		百貨店（売場担当）	・消費者の買い控えは弱くなっているため、クリアランスが始まれば、来客数、売上共に増加が期待できる。
		百貨店（経営者）	・前年に比べてボーナス支給額が増える見込みであり、消費者の購買意欲は強くなる。
		百貨店（販促担当）	・物産展や催事への消費者の反応が良くなってきているため、今後も売上の増加が期待できる。
		衣料品専門店（店長）	・景気を持ち直し感からビジネス客の動きが良く、前年に比べて来客数が増加傾向にある。
		衣料品専門店（店長）	・高価な商品を買いたい客が少しずつ増えているため、今後の売上に期待できる。
		衣料品専門店（店長）	・天候が安定すれば、我慢が続いた買い控えの反動で、販売量の増加が期待できる。
		家電量販店（店長）	・エコポイント制度が延長されたため、薄型テレビの販売は今後も良い動きが続く。また、天候に左右されるものの、エアコンや冷蔵庫などの季節商材もボーナス商戦の売上に期待できる。
		乗用車販売店（経営者）	・新型車の販売イベント効果とエコカー購入補助金の駆け込み需要が見込まれるため、来店客の増加が期待できる。
		その他専門店〔靴〕（経営者）	・天候不順はしばらく続くものの、必要な物に対する消費者の需要は次第に強まっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		高級レストラン（経営者）	・悪い条件が出揃い、景気も底を打っているため、後は上向いていくだけと期待している。
		高級レストラン（支配人）	・外資系ホテルの進出が消費を刺激するため、来客数の増加が期待できる。
		一般レストラン（経営者）	・住宅需要の盛り上がりで不動産関係を中心に景気が良くなっており、天候が安定してくれば人の流れが回復してくる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ボーナスを支給する企業が前年に比べて増えているため、宿泊客や飲食客の増加が期待できる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約申込が前年を上回っている。
		通信会社（営業担当）	・各社とも新機種が投入されるため、機種変更などの需要が期待できる。
		美容室（経営者）	・参議院選挙までは消費者の様子見が続くものの、子ども手当やボーナスの支給で所得が増えるため、景気は良くなる。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・消費マインドは回復しており、買上点数の増加が期待できる。
		商店街（代表者）	・子ども手当の支給が始まるため、消費への効果には注目するものの、身の回りでは盛り上がりを感じられない。
		商店街（代表者）	・来街客は増加しているものの、実際の購買にはつながらず、販売単価の低下が商店街全体で続いている。
		商店街（代表者）	・小売店でのサービス競争が激しくなっているため、商店街の各店舗では来客数と売上の確保に苦心が続く。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・自然災害の影響は落ち着いてきており、来店客の様子から購買力の回復がうかがえる。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・商品が動き出す兆しはみあたらない。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・夏物商材が売上に貢献する時期になるが、繁華街では参議院選挙まで様子見が続くため、先行きは不透明である。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・子ども手当の効果には期待するものの、景気の回復にはつながらない。
		百貨店（売場主任）	・冷夏と予報されているため、クリアランスセールでも夏物衣料の売上には期待できない。
		百貨店（経営者）	・長期予報では天候が安定しないため、今後も季節商材の売上には期待できず、景気回復のプラス材料はみあたらない。
		スーパー（経営者）	・株安や円高で先行き不安が広がっており、回復の兆しがある雇用への影響が懸念される。
		スーパー（店長）	・子ども手当の支給に期待するものの、節約志向の強い消費者は多いため、低価格販売はしばらく続けざるを得ない。
		スーパー（店長）	・消費者の低価格志向に変化がなく、チラシ特売の品数を増やしているが、前年の来客数を上回るの難しい。
		スーパー（店長）	・低温が続いているため、農作物の作柄や地域経済への影響が懸念される。
		スーパー（総務担当）	・子ども手当への期待はあるが、教育費や貯蓄にまわって直接消費には結び付かないと予想されている。
		スーパー（営業担当）	・天候不順が続くと野菜の価格高騰など不安要素が多くなるため、消費者の財布のひもは固いまま変わらない。
		コンビニ（経営者）	・景気が上向いているとの報道もあるが、来店客の話や商品の動きから判断すると、依然として消費者は厳しい生活が続いている。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数、客単価共に回復の見込みがなく、厳しい状況は当分変わらない。冷夏の長期予報もあり、天候を要因とした更なる悪化が懸念される。
		コンビニ（店長）	・最悪の状況は抜け出しているものの、客単価が低迷しており、デフレの状況はしばらく変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・消費マインドが回復しているため、消費者が期待する価格対応ができれば、売上の増加も期待できる。
		衣料品専門店（経営者）	・景気の変化する要因がみあたらない。
衣料品専門店（総務担当）	・低価格商品を支持する消費者は依然として多く、購買意欲の回復はしばらく期待できない。		
家電量販店（店長）	・サッカーワールドカップ開催の起爆材料はあるものの、液晶テレビの品薄な状況が続くため、販売台数はしばらく低迷する。		
家電量販店（店長）	・ギリシャ財政危機や個人所得の落ち込みによる先行き不安から、消費者の買い控えはしばらく続く。		
乗用車販売店（経営者）	・エコカー購入補助金の終了まで、駆け込み需要が期待できる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		スーパー（店長）	・冷夏と予想されており、季節商材の売上不振や農産物の価格上昇が懸念される。		
		スーパー（店長）	・競合他社では、食料品雑貨の特売日をなくして毎日安売りする方法に変えており、運営コストなどが削減できるために採用する企業は増えている。		
		コンビニ（経営者）	・客単価の落ち込みに加えて、冷夏により季節商材の需要が低迷するため、売上が例年を割り込む懸念がある。		
		コンビニ（経営者）	・冷夏の長期予報であり、例年に比べて厳しい売上が予想される。		
		コンビニ（経営者）	・冷夏の長期予報に加えて、競合店が出店したことから、来客数の前年割れがしばらく続く。		
		コンビニ（エリア担当）	・長期予報では冷夏と予想されており、季節商材の売上悪化が懸念される。		
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー購入補助金による駆け込み需要で、しばらくは前年を上回る販売台数が期待できるものの、景気回復を実感するには程遠い。		
		乗用車販売店（経営者）	・ボーナス商戦には期待できず、エコカー購入補助金終了後の販売台数は厳しい状況が予想される。		
		乗用車販売店（従業員）	・自治体のエコカー購入補助金が終了し、駆け込み需要がなくなるため、販売台数は減少する。		
		住関連専門店（経営者）	・低温が続いて農産物の作柄は悪くなるため、景気はしばらく悪くなる。		
		一般レストラン（経営者）	・国内政治の迷走やギリシャ財政危機の報道が消費者の先行き不安につながり、個人消費の冷え込みが一段と進む。		
		一般レストラン（スタッフ）	・景気の低迷で、消費者の財布のひもは一段と固くなる。		
		一般レストラン（支配人）	・天候予報では冷夏と予想されており、主力の地ビールは売上が期待できない。		
		その他飲食〔弁当〕（スタッフ）	・東北新幹線延伸に向けて新駅周辺の出店が増えているため、ますます市中心部への集客が難しくなる。		
		都市型ホテル（経営者）	・宴会やレストラン部門の予約が低調で、宿泊部門ではビジネス客の予約が例年を大幅に下回っている。		
		都市型ホテル（スタッフ）	・冷夏と予想されており、企画商品等で例年は満室になる日でも空室があるため、売上が前年を割り込んで悪化する懸念がある。		
		観光名所（職員）	・予約が前年を下回っているため、今後の売上は悪くなる。		
		悪くなる		商店街（代表者）	・来客数は底を打って横ばいが続いており、改善に向かう要素が見当たらない。
				一般小売店〔書籍〕（経営者）	・政治の迷走で先行き不安が広がるため、消費マインドが低下して売上の回復は期待できない。
				一般小売店〔雑貨〕（企画担当）	・ギリシャ財政危機や国内政治の迷走などで、消費者の先行き不安が強まっており、節約志向や買い控えが強まる懸念がある。
スーパー（経営者）	・有効求人倍率の低下や冷夏の長期予報から、売上、買上点数共に一段と数字が悪くなる。				
スーパー（経営者）	・参議院選挙や高速道路料金の引下げ制度の先行きが不透明なため、売上の悪化が懸念される。				
一般レストラン（経営者）	・生活が不安定で先行きに不安を抱く人が多いため、景気の悪循環から抜け出すのは難しい。				
観光型旅館（経営者）	・天候不順が続いて農作物の作柄に影響が出ており、米の作柄は観光や旅行の需要に影響するため、今後の受注悪化が懸念される。				
競艇場（職員）	・個人所得の減少や景気の低迷など、先行き不安につながる要因が多いため、個人のレジャー支出は一段と減少する。				
企業動向関連	良くなる			電気機械器具製造業（企画担当）	・経営状況が良くなっているため、設備投資や製品開発の計画が増えており、給与やボーナスの支給にも期待できる。
				建設業（企画担当）	・着工を凍結していた工事が再開され、工事の届出件数が増加傾向にある。
	やや良くなる	輸送業（経営者）	・取引先は、今後の物量の増加が期待できる状況にある。		
		通信業（営業担当）	・業績予想が想定内に収まる見込みであり、今後の業績回復に楽観的な見方が広がっている。		
		広告業協会（役員）	・ボーナス商戦はあまり期待できないものの、前年に比べて流通関係の広告で引き合いが増えている。		
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・景気は底を打っているため、天候が例年並みで推移すれば、季節商材の受注は増加する。		
		変わらない	農林水産業（従業者）	・天候不順の影響で桃の生育が遅れており、収穫時期がお盆までずれ込むと販売価格の低下が懸念される。	
			農林水産業（従業者）	・今後、直売米の注文は増える見通しが立たない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		食料品製造業（経営者）	・高速道路料金の引下げ効果は前年ほどではないものの、他地域からの入込や土産物の売上は期待できる。
		食料品製造業（総務担当）	・原材料価格に影響するため、冷夏による米の作柄が懸念される。
		食料品製造業（総務担当）	・冷夏の影響で、今後の売上は例年を下回る見込みである。
		繊維工業（営業担当）	・景気の早期回復は期待できない。
		木材木製品製造業（経営者）	・戸建住宅の需要が安定しているため、しばらくは順調に推移する。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・参議院選挙関連の飛び込みの仕事はあるものの、それ以外で受注が増加する要因は見当たらない。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・企業は広告宣伝費を削減しているため、チラシ折込やマスコミ媒体の受注はしばらく期待できない。
		土石製品製造販売（従業員）	・今後3か月で景気が回復する要因はみあたらず、回復が数字に現れるには時間がかかる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・利益率の改善が進まないため、仕事量が増加しても中小企業では景気回復につながらない。
		建設業（経営者）	・住宅リフォームの受注や公共工事の案件が少しずつ増えている。
		建設業（従業員）	・民間企業の設備投資が回復するには、しばらく時間がかかる。
		金融業（営業担当）	・景気に変化する明るい兆しが見当たらない。
		広告代理店（経営者）	・参議院選挙による受注は多少期待できるものの、全体的な受注は例年を大幅に上回るほどではない。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・販売店の売上や集金員が持ち帰る話題から、先行きに明るさは感じられないものの、経済の変化に敏感な人から経済紙の購読申込が散見されるようになっている。
		経営コンサルタント	・参議院選挙の前哨戦が始まり、企業活動はしばらく様子見の状況が続く。
		公認会計士	・請負金額の減額要請が続く建設業や、消費マインドが低迷している小売業など、得意先では厳しい経営が続く。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・首都圏の大手小売では過剰在庫を抱えない方針があり、酒類の需要や販売量の回復はしばらく期待できない。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・住宅関連の取引先は、企業努力で業績の良い会社もあるが、全体として厳しい状況は変わらない。
		その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	・失業者の増加で先行き不安が広がっており、取引先から景気の変化は感じられない。
		金属工業協同組合（職員）	・半導体関連の受注量は増加傾向にあるものの、原材料価格の影響で太陽電池関連の受注が低迷している。
やや悪くなる		一般機械器具製造業（経理担当）	・円高の進行や原材料価格の懸念に加えて、エコカー購入補助金が終了すると新車販売は落ち込むため、自動車部品の受注は減少する。
		通信業（営業担当）	・業界の再編に加えて、取引先の態度は一段と厳しくなるため、落ち込んだ状況から目標値までばん回するのは難しい。
		広告代理店（経営者）	・新規の受注案件が見当たらないため、再度落ち込みが予想される。
		司法書士	・改正貸金業法の施行により、破産手続きの増加が予想される。
		コピーサービス業（経営者）	・官公庁の案件は、参議院選挙が終わるまで動きが悪い。
悪くなる		人材派遣会社（社員）	・採用に関する企業からの問い合わせの件数が増加傾向にある。
		人材派遣会社（社員）	・製造業関係からの需要が増加傾向にある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・スーパーの新規出店や住宅販売会社の計画があり、不動産関連の求人に動きがみられる。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率が上向く傾向にある。
		職業安定所（職員）	・休業など雇用調整の実施件数は横ばいであるが、実施延べ人日が減少傾向にあり、雇い入れに係る助成金などの相談が増加している。
変わらない		人材派遣会社（社員）	・求人は人気の無い職種だけが残っており、雇用環境はなかなか改善されない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・県内景気の先行きに不透明感があり、求人活動の停滞が続く。
		職業安定所（職員）	・雇用情勢が改善する明るい材料は見当たらない。
		職業安定所（職員）	・下降に一服感がみられた有効求人倍率が、再び下降に転じており、厳しい状況はしばらく変わらない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は増加傾向にあるものの、来春の新卒者採用の動きは低調である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・一部の製造業では仕事が増えているものの、短納期で受注価格も抑えられているため、雇用状況の改善にはつながらない。
		職業安定所（職員）	・人員整理をする事業所の動きが続いており、良くなる傾向は見られない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・労働者派遣法の改正や運用の見直しにより、今後の受注は一段と落ち込む可能性がある。
		アウトソーシング企業（社員）	・現状を打破する景気回復の要素が見当たらない。
		職業安定所（職員）	・有効求人数は前年並みで推移する一方で、有効求職数が増加傾向にある。
	悪くなる	人材派遣会社（社員）	・利益率が低下する一方で費用の割合が高まっており、しばらく改善が見込めない。

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（経営者）	・複合施設併設の大型スーパーが開店したので、この地域が注目されている。天候が気になるものの、夏休みには近くのレジャー施設にも来客が予想されるので、大胆かつきめ細かい品ぞろえで売上が取れると考えている。
		衣料品専門店（統括）	・例年5～10月にかけては各地での祭りやイベントに参加する客の動きが活発になってくる時期である。このところ各市で同業者が廃業になることが多いようで、遠方からも客が来るようになってきている。
		通信会社（営業担当）	・ボーナス商戦の始まりと共にサッカーワールドカップも始まるので、消費が高まる。
		テーマパーク（職員）	・新規投資による効果が、今後3か月以上続く。
	やや良くなる	一般小売店〔家電〕（経営者）	・夏に向かって、冷蔵庫やエアコン等のエコポイント制度対象商品と併せた販売に期待を持っている。
		百貨店（営業担当）	・これまでずっと前年割れで推移して来たが、5月は前年の数字を上回り、若干リーマンショックも一段落、やや上がり気味という状況である。客の様子も、安い物を求めるだけではなく、幅広い買物になっている。
		百貨店（販売促進担当）	・生活防衛から、趣味性の消費へとわずかではあるが購買意欲が向上してきている。しかし、消費に対する堅実さは継続し、大幅な景気回復には至らない。
		スーパー（総務担当）	・製造業の受注が増えているので、従業員の収入アップにつながれば、多少上向きになる。
		スーパー（経営企画担当）	・子ども手当の支給も始まり、また、大手企業の夏のボーナスが前年より増えるということなので、消費も多少は上向くのではないかと考えている。
		コンビニ（経営者）	・これから夏に向けてコンビニエンス業界は業績が上がる見通しであるが、ギリシャ財政危機や冷夏というマイナス要因もあるので、非常に不透明である。
		コンビニ（経営者）	・競争相手との販売競争は幾らか良くなる。
		コンビニ（経営者）	・地元の製造業がわずかながら上向いてきている。
		コンビニ（経営者）	・現在コンビニエンスストアが5店舗集中しているが、今月末に1店舗閉店するので、その分少し客が増える。
		コンビニ（店長）	・街中に若者が少なくなり、高齢者が目立って増えている。周りの商環境は悪化していく一方で、今更、行政や商店主が何かをやっても、生活者にとってはプラスになるかもしれないが、営業に影響することはない。新規のカードの取扱いが始まるため、これによる来客数の増加を期待している。
		家電量販店（店長）	・エコポイント制度対象商品であるテレビの供給が回復する。冷蔵庫、エアコンの需要期を迎えるなど好材料に期待が持てる。
		自動車備品販売店（経営者）	・地方では失業や倒産が増えているため、修理代等はかなり単価が下がっている。しかし、一般顧客による車の購入がやや増え始めている感じがする。
		住関連専門店（店長）	・6月から子ども手当の支給が始まるので、多少景気は上向く。
		住関連専門店（仕入担当）	・子ども手当での支給開始、年金支給月と、プラスの要素が重なり、客単価の上積みも期待できる。
		都市型ホテル（支配人）	・近くにオープンした茨城空港により、韓国や台湾からの客が来るようになり、新しいマーケットの増加が見込まれる。
		旅行代理店（経営者）	・製造業がやや上向いている様子なので、やや良くなる。
タクシー（経営者）	・4月で下げ止まりが見えてきて、5月は少し伸びてきたため、6月以降は少し良くなると考える。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		通信会社（経営者）	・悪い状態は続くものの、夏までには底を上げられる兆しが見えている。
		その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	・当社ビルに入っているテナントのうち8社ほど、業績が上向いて来客数も増えている。その他は横ばいだが、当社としても上向きの売上予想が立てられるし、来客数についても前年比8～10%増を見込んでいる。単価も上向きに転じていると思われるので、将来はやや良くなる。
		商店街（代表者）	・子ども手当支給、高速道路料金引下げの継続など期待も持てることもあるが、身の回りを見ると消費の増加に対しては期待が持てない。
		商店街（代表者）	・不景気続きのつえ、悪天候が続いているので、人も品物も今は動かない。早く天候が例年どおりに落ち着いてほしい。
		商店街（代表者）	・スポーツ用品販売は、春先から夏までの間が勝負であり、客は必要なものは必ず買ってくれるので、8月いっぱいは今とそれほど変わらずにいく。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	・宮崎県の口蹄疫の影響が出始めており、仕入れが高くなって来ている。消費が控えめなので景気は上向きにはなりそうにない。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・建築関係の動きが多少見られるようなので、その関係の売上を期待したいところであるが、天候不順に伴い、季節商戦は見込めない。エコポイント制度に関しても消費者が慌てて購入するには至っていない。
		一般小売店〔乳業〕（経営者）	・一般消費が上向き雰囲気は全くない。
		百貨店（営業担当）	・4月に全館をリニューアルオープンし、いろいろなかたちで各フロアごとのかたまりが出来てきたような気がする。フロアのパートナーの新しいアイテムとの相乗効果が出て、結果が出て来る。
		百貨店（営業担当）	・来客数の改善がややみられるが、天候など不確定要素や参院選などの動向もあって、結果的には好転しない。
		スーパー（経営者）	・小売店の供給過剰により、恒常的な競争が続く。
		スーパー（店長）	・弱電関係の工場に仕事があるらしく、近隣の生活者の状況は良いと聞くが、まだ消費活動は活発ではない。
		スーパー（統括）	・来店頻度は一昨年並みに戻りつつあるが、客単価はまだ一昨年レベルに届いていないので、本格的な消費の回復はまだまだ先のようなのである。
		コンビニ（店長）	・当店の周りで工事関係が若干あるので、その分で何とかなると思うが、特別大きな工事というわけではないので、3か月先でも景気はそれほど変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・販売台数が増えたり、伸びるような経済状況ではない。経済の見通しが今後改善される内容ではない。
		乗用車販売店（営業担当）	・補助金の締め切りが迫っていることに加えて、他社の新型車の投入によって来場者数が増加している。この現象は、補助金の支給終了まで続くと考えられる。
		乗用車販売店（営業担当）	・中古車の商談比率が高い中で、客の要望する車を探すのに時間が掛かってしまい、思うように売上が伸びない。
		乗用車販売店（販売担当）	・展示会をやっても売れず、今後2～3か月先が全く読めない。客が口癖のように、不景気なので高額な輸入新車は買えない、と言っている。何をやっても客が寄って来ない状態なので、このままの悪い状態で推移していく。
		乗用車販売店（管理担当）	・経済対策による消費は緩やかに上向いているが、異常気象による米不足、野菜や果樹等の不作や、家畜の口蹄疫による影響が小売単価上昇につながり、今後、消費量が低迷する。
		一般レストラン（経営者）	・マスコミ等の報道では一部景気は上向きだといっているが、まだ中小零細企業は苦心している状況である。
		スナック（経営者）	・落ちるところまで落ち切った感じがする。上がっていく様子は無いので、しばらくこのままであると考える。
		観光型ホテル（営業担当）	・ネットを通じた個人予約は顕著に伸びているが、燃料が再び高騰傾向であり、マイカー客の入りに不安要素が残る。一部の旅行エージェントを除き、大手エージェントからの送客はもはや期待薄である。
		都市型ホテル（経営者）	・ユーロ圏の金融不安による円高で輸出生産が減少すると、なおさら自動車関係は厳しくなる。
		旅行代理店（副支店長）	・客の様子を見てみると、すべての業種で景気が悪く、単価の低い旅行を申込み。次回の旅行の予定もままならない、との話を聞く状態である。
		旅行代理店（副支店長）	・ユーロ圏や原油高騰が少し気になるが、利益を多少なりとも確保して、海外出張が増えている企業も出てきているので、少し持ち返して来た感がある。しかし、安定した景気上昇や高利益につながるにはまだまだである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（局長）	・ボーナス期を迎え、一時的な消費は期待できるものの、顧客の様子からは継続的な消費拡大の期待感は薄い。
		通信会社（営業担当）	・気象予報では、今夏は日照不足、冷夏が報道されており、果樹などの農業が中心のこの地域では今から不安視されている。
		通信会社（営業担当）	・来店してもらっても、なかなか販売につながらないケースが多く、買い控えの状態が続いている。
		ゴルフ場（支配人）	・7月の参議院選挙に向けて、各地区での動きが始まったことによる来場の減少が見受けられる。また、気候の変化が激しく、年配者の平日の利用が少なくなってきたと思われる。
		ゴルフ場（業務担当）	・天候に大きく左右されるが、コンペの引き合いが土日結構構きており、なんとか前年並みにもっていけるのではないかと。ただ、平日の入場者の取込みいかんによっては、売上がそこまで伸びないかもしれず、微妙なところである。プレー費の下落にはなかなか歯止めが掛からないものの、売店や食堂、衣料品などのオプションやプラスメニューでなんとか前年比の水準を満たしていきたい。
		競輪場（職員）	・他場の記念競輪等の売上目標値を、軒並み達成できていない。
		美容室（経営者）	・カットの客数、入店客数共に徐々に増えつつある状況である。しかし、低料金の店がはびこっており、低料金にしなければいけないという雰囲気にもまれている。
		その他サービス〔清掃〕（所長）	・ボーナスが支給される企業でも、減額されているところが多く、国を見ても景気に与える好材料は見当たらないので、このままの状態が続く。
		設計事務所（所長）	・そろそろ役所からの発注物件が出てくる期待感があるが、地方自治体の財政状況が良くないので、あまり期待をしない方が良くかとも思う。民間主導型の設備投資が見えてくるまでは今までと変わらない。
		設計事務所（所長）	・建築関係については、スプリンクラーの設置や小規模施設が多く、大きな影響はないものと考えている。
		設計事務所（所長）	・あまり変化はないと思うが、今月イベントで集客した客を、電話連絡やダイレクトメール等を利用して取りこぼしなくフォローしていきたい。来月、再来月に向けて少しでも受注につながるよう努力したい。
		住宅販売会社（従業員）	・別荘の維持費負担等から売り物件が増加傾向にあり、新規購入よりも売却のほうが多い状況が続いている。
		住宅販売会社（経営者）	・住宅資金贈与の控除幅が拡張したことが浸透してくれば、富裕層の親からの援助によりまた特需が起きるかもしれないが、一時的なものだと考える。
		住宅販売会社（従業員）	・展示場来場者数や現場見学会来場者数も横ばいの状況であり、今後の受注量増加は見込めない。
やや悪くなる		商店街（代表者）	・ポイントサービスをしているせいか、値引きの話もなく、スムーズな販売となっており、低価格商品は動いている。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・天候不順で野菜の価格が上がってきており、また、果物もかなり遅れて出ていて、値段の下がり方が遅い。6月のボーナスもかなり落ちると思われ、良くなる要素が見当たらない。
		百貨店（総務担当）	・顧客リサーチを約15万人に対して行っているが、テレビや新聞で言われているように上向いているという上場企業もなく、景気全体が悪い企業が多い。特に建設土木関係、次いで観光地関連も収入減ということで、上昇はしばらくない。
		スーパー（総務担当）	・食料品については、仕掛けをすればそれだけの成果は挙がる。衣料品は天候が不順なので先行きが不透明で、高額品がなかなか売りづらく、低単価の必需品を中心に売れていく。
		衣料品専門店（店長）	・バーゲン時期で客単価が低い上に購買客数の増加も望めないため、苦しい状況が続くと考える。
		高級レストラン（店長）	・下げ止まったようでも毎年少しずつ前年実績を下回っており、回復しないままジリ貧の状態になっている。
		一般レストラン（経営者）	・天候不順の影響もあり、同業者の話にも諦めムードが感じられる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・飲食関係は選挙があると出足が非常に鈍くなってしまうのが恒例で、今年は参議院選挙等があるため、見通しが少し暗い。
		遊園地（職員）	・一般家庭では所得減少によって消費マインドが冷え込んでおり、家庭のレジャー支出抑制の影響が大きいので、もうしばらくは消費単価の大幅な伸びが期待できない。
		ゴルフ場（従業員）	・来場予約が前年よりも減少している。
悪くなる		衣料品専門店（経営者）	・季節感が無く先が読めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（販売担当）	・暖かい日と寒い日が交互に来ている状況の中で、暑い日は比較的、人の出は良い。それでも、客の様子から、品物を見ただけで満足しなければいけない、と自分に言い聞かせているような雰囲気を感じており、これからその状況は続く。
		都市型ホテル（スタッフ）	・これから夏場に向けて総会が終わり、ビジネス客の動きが鈍くなる時期になる。当地は東京の通勤圏内に位置するため、法人企業関係の動きが鈍い状態にあり、夏場に掛けて非常に厳しい状況にある。
企業動向関連	良くなる	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・昨年から見ても、大体前年比90～100%近くの増加で、倍増に近い状況になっており、人員不足も派遣関係の手当て間に合わせている。12月あたりまでは非常に好調に行きそうである。
		その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・ライター事故があって、関係行政が対策でいろいろ動いているため、今後、エアゾール缶、ガス缶、ライターの処理装置などが良くなる。
	やや良くなる	食料品製造業（製造担当）	・夏場に向けて、夏商材の特売を掛けるし、新規出店もあるので売上はそこそこ伸びる。競合店が価格競争をし始めると危険であるが、客は美味しい物を求めている面もあるので、価格に負けないものづくりが大事である。
		一般機械器具製造業（経営者）	・中国向け油圧機器の仕事が大幅に増加し、過去のピークを越える可能性も出てきた。また、自動車向け新規量産の仕事も軌道に乗ることから売上のペースも安定が見込める。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・取引先10社中3～4社は大分仕事が出てきたが、これから徐々に他の会社も仕事に戻ってくる。
		金融業（経営企画担当）	・観光地においては、7月からの中国人ビザ拡大に期待を寄せている。今後新型インフルエンザの影響などが無ければ、外国人観光客の増加は間違いない。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・現状の引き合い、受注量から見て、企業業績は改善されるだろうが、国際情勢の変化がどう展開して行くかという不安材料もあり、当面予測を許さない状況が続く。
		変わらない	食料品製造業（営業統括）
		一般機械器具製造業（経営者）	・今年度中は、受注が増えた分だけ他の物が減るという状況で推移する模様である。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・1度海外に行ってしまった部品加工は2度と国内に戻ることはないので、本当に困る。
		電気機械器具製造業（経営者）	・多少の増減はあるが、注引量は平行線をたどっている。全く注文が無くなることはないものの、ある時大量に注文が出たと思ったらキャンセルになり、また、少ないと思ったら追加の注文が出るという状況である。取引先もどのくらい発注して良いのか考えあぐねているようであり、当社としても対応するのが非常に厳しくなっている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・業種によってはフル操業になっているとの話を聞いているが、まだまだ設備投資を行うところまでは回復しておらず、先行きが非常に懸念される。
		輸送業（営業担当）	・子ども手当等の給付も始まり、消費が拡大して行く様相であるが、相変わらず低価格割安感が消費者に求められているため、荷主の多くもデフレ状況からなかなか抜けられず、運賃への転嫁が厳しい状態がまだまだ続きそうである。
		金融業（総務担当）	・今まで手をつけなかった物件費などにも切り込んで見直しを行わなくてはならないので、今後もしばらくは経費削減傾向が続くと考える。
	不動産業（営業担当）	・大企業は徐々に景気が良くなっているが、中小企業はまだまだであり、個人に回ってくる金は景気が悪い状況である。低価格販売も続いているため、売っても利益につながらない状況が継続しており、全体的な景気は良いと言われているものの、マイナス要因もある。	
	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・衣料品関連の問題は、この気候が続くと、夏の売上が大きく落ちると予想しており、この1か月で何とか持ち直して欲しい、と話している。自動車販売会社は、3月から持ち直し、今月も前年を上回っているようである。エコカー補助金等を生かしつつ、対象から外れる車種は自社のキャッシュバック等の制度で補完するなどして、この先も売上増加を見込んでいるようである。	
	経営コンサルタント	・中小企業は目先の売上や受注を確保できるか否かで精一杯である。物流関連に多少上向きの動きがあるが、いつまで持続するか心配されている。	
	社会保険労務士	・売上目標が前年度と同じか、少し上回る程度のところが多く、その目標達成に苦労しているところが大多数である。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	司法書士	・一番の仕事である不動産登記が上向きつつあるところであるが、今後はどうなるか分からないので、上向くとまでは言えない。
		化学工業（経営者）	・65歳の定年退職者が出るため、人件費の節約に多少のプラスになるかもしれないが、主力商品の売上回復の兆しがまるでないのでどうしようもない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・毎月毎月先が読めない不安の中で仕事を続けており、安定した受注はもう望めない状況なのかと不安である。なんとか営業、開拓をして仕事を確保している。
		金融業（役員）	・円高がまた進みつつあり、製造業において収益力が低下し、再び雇用不安が芽生えつつある。
		広告代理店（営業担当）	・利益の出ない仕事でも、受注しなければ金が回らない。会社の体力が弱ければ、同業他社の倒産も十分あり得る。
	悪くなる	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・仕事の受注量が減っている上、今ある仕事も単価を下げる話ばかりである。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・新聞でダイヤモンドの鑑定の甘さが指摘された記事の影響で、デパートが動揺している。鑑別の取り直しを含め、宝飾業界に大きな負担となる。
		建設業（総務担当）	・4月に隣の市で老舗の建設業者が2件倒産し、5月にも1件が倒産している。原因は売上減による赤字決算であり、結果として資金繰りが立たない。このような状況、受注減少はこの建設業者にも当てはまるので心配が絶えない。
		通信業（経営者）	・景気回復の兆しが見えず、得意先企業も経費削減に躍起になっているため新規の仕事が発生しない状況で、まさに負のスパイラルに陥っている。
雇用関連	良くなる やや良くなる	-	-
		人材派遣会社（経営者）	・住宅関連の増改築、新築等が幾分目立ってきたので、これに伴う住宅資材、住宅に付帯する調度品や家具等の動きが出てくると思われる。それを受けて内装や建築等の工事関係者は、幾分見込みが立てられる、と動き始めている。自動車関連も動き始め、住宅関連と自動車関連が目立って動くのではという期待を若干抱いている。
		人材派遣会社（経営者）	・付き合いのある客で、今後忙しくなる予定の会社が2つあるので、その影響で良くなる。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	・生活を取り巻く情勢が不安なことから、将来に不安を抱えざるを得ない。おう盛な消費行動が起きてこない。
		人材派遣会社（管理担当）	・政府の派遣に対する方針が曖昧なため、先が読めない。取引企業からは、派遣社員を自社で抱えるのは難しい状況、との返答があり、しばらくはこの状況が続くそうである。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・周辺企業では製造業で一部仕事量が増加してきているものの、社員を募集するほどの企業はほとんどない。
		職業安定所（職員）	・製造業の受注が回復傾向にあるようで、派遣求人が増加していく。ただし、正規従業員を採用するところまでは事業所も踏み込んでおらず、先行きが見えない。
		職業安定所（職員）	・雇用調整助成金（計画数）について、申請企業数としては前月同様で推移している。新たな雇用調整の相談企業も出てきているが、活用日数、人数は減少している。
		職業安定所（職員）	・企業側の求人や採用意欲が依然低調と感じられ、正社員を中心とした新規求人がこのままの水準であると厳しい。
		職業安定所（職員）	・製造業は少し上向きになったと判断されているが、雇用調整助成金の活用が依然として見られるので、当分の間、景気は変わらない。
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・2年前までは地方の支店で採用の決定ができていた大手企業でも、最終意思決定は本社にあるという状況で、慎重に採用を進めている。	
	職業安定所（職員）	・ギリシャ財政危機等に鋭く反応している企業が多く、製造業をはじめとして景気の持ち直し感が停滞しており、やや悪くなる状態である。	
	悪くなる	-	-

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	コンビニ（経営者）	・この夏場に非常に良い天気が続けば、それによって飲料などが多く出るので、景気は上向く。
		家電量販店（営業統括）	・雇用環境が好転してきていることで、消費意欲も向上していると感じている。夏のボーナス支給の内容によるが、引き続き消費活動は活発化する。また、7月以降の中国国内でのピザ発給条件緩和に伴う来日観光客の増加に期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店(支店長)	・1年を通して個人旅行が最も動く時期なので、間違いなく良くなる。今年は海外旅行に少し戻りが出てきており、これから販売が本格化していくので受注に期待できる。国内でもファミリー層の動きが活発になるので、良くなる。
	やや良くなる	一般小売店[家電] (経理担当)	・ボーナス時期になり、エアコン、冷蔵庫にとっては、エコポイント制度を使う良い機会なので、やや良くなる。
		一般小売店[文具] (販売企画担当)	・競合店が廃業したり役所等への出入りを禁止されている所があったりと、そのような部分において、今後も案件等が結構集中することが考えられる。また、店頭も好調になっているので、これからも少し良くなっていく。
		百貨店(売場主任)	・各種給付金が支給されれば購買意欲の上昇が見込める。
		百貨店(広報担当)	・6月は夏物の定価品の最盛期であり、増加傾向にある来客に対して、関心度の高い企画を連打し、買上向上を図る。前年はセールで売上ヘッジをしたが、今年は夏物の定価品で期待にこたえていく予定である。
		百貨店(営業担当)	・以前ほどの勢いはないものの、客も節約消費にそろそろ飽き始めてきているので、ある程度消費行動が活性化する。
		百貨店(営業担当)	・富裕層の買上が多い、宝飾、時計、美術が堅調に推移していることに加え、30歳代、40歳代のキャリア女性の婦人服、服飾雑貨、化粧品等の買上が戻りつつあり、先行きに明るさが出ている。
		百貨店(営業担当)	・以前に比べ話題性のある事項について、消費者の反応が良くなってきている。一方、将来の見通しが読めない現在の環境において、支出することに対し慎重になっている。両面を考えると、集客性をより高め、消費する機会を増やし、浅く広く対応することにより、しばらく続いた前年割れの状況は脱することができる。
		スーパー(店長)	・当店は9月に大改装する予定だが、他店でも改装ラッシュが続いている。期待を込めて、先行きは若干良くなる。
		スーパー(総務担当)	・価格についてはもう底を打った感があり、各企業、メーカーの努力によって新製品や新しい価値の付いた物が多く販売されていることで、客の購買意欲を刺激している。
		コンビニ(商品開発担当)	・新規オープンした店舗が、当初の予算を上回ってきている。
		衣料品専門店(店長)	・経済状況が極端に変わらない限り、今の傾向は今後も続いていく。
		衣料品専門店(営業担当)	・近隣の駅ビルで、当店のターゲットとするミセスゾーンがすべて撤退したため、客が流れてきている。
		乗用車販売店(販売担当)	・新車購入に対するエコカー購入補助金も終わりに近づいていることがユーザーに浸透しており、来客数がかかり増えてきて、販売につながっている。
		乗用車販売店(総務担当)	・新型車効果が表れることと、エコカー購入補助金制度の影響もあって上向きになる。ただし、10月以降は厳しい状況になる。
		高級レストラン(副店長)	・急激に良くなることは考え難いが、2~3か月の予約状況の推移を見ると、満足できないが、悲観するほどでもない。
		一般レストラン(経営者)	・2、3か月先はいくらか人も動くので、今よりは少し良くなる。
		一般レストラン(店長)	・ボーナスも出るので少し良くなって欲しく、非常に期待している。
		都市型ホテル(スタッフ)	・今後の宿泊、レストラン、宴会の予約人数は前年同期比で2~3%上回っているため、少しは良くなる。
		旅行代理店(営業担当)	・旅行シーズンで企画商品も順調になり、やや良くなる。
		タクシー運転手	・7月の参議院選挙があるので暇になると思われるが、タクシー車両の削減が更に進むようなので、ライバルが減って多少良くなる。
	タクシー運転手	・当業界も底を打ったような気がしている。タクシーチケットの客も若干増えてきたようなので、今後は期待できる。	
	通信会社(経営者)	・節約疲れも限界に達する。ボーナスも少し上向く。	
	ゴルフ練習場(従業員)	・最近、週末の天候が安定してきており、来客数が増えている。6月も客数は増える見込みで、状況は良くなる。	
	パチンコ店(経営者)	・夏場は涼を求めて店内に来る客が増えるが、ちょうどその時期に人気のある面白い機械が出ることで多いので、今よりは良くなる。	
	その他レジャー施設 [ボウリング場](支配人)	・子ども手当が支給され、やや良くなると期待している。	
	その他サービス[語学 学校](総務担当)	・5月下旬からインターネット広告が始まったので、併せた営業の結果に期待している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		設計事務所（職員）	・建築確認申請の簡素化が図られることにより、住宅市場から改善の兆しが少しでも見え始めることに期待する。
		住宅販売会社（従業員）	・前月、今月と販売量が悪かったために、これ以上は悪くならないだろうという安易な考えもあるが、3月決算で一息ついた建売業者が新規の物件供給を始められるので、販売増が見込める。相変わらずの低金利と優遇税制のなか、新規の物件供給があれば、景気はやや良くなる。また、住宅ローンの支払が苦しくなっている人が増えており、売却相談が増えているので、中古住宅の売却も増える。
		商店街（代表者）	・この回復基調のまま、ゆっくりと流れていく。今のところ、大幅なぶれは考えられない。
		商店街（代表者）	・天候不順で、春先に出るようなものが出なかったり、特に寒い日はカイロが出るなど、今までにないような状態が続いている。この状態ではどうしても偏りが出てくるので、先行き暑くなる時は暑くならなると困る。
		商店街（代表者）	・衣料関係が多少良くなってきており、それに付随してサービス業、クリーニング業などから、今まで来なかった客がぼちぼち来店するようになってきたと聞いているので、多少上向いている。
		商店街（代表者）	・商店街の来街者は数の面ではさほど変わらないが、来街者には買物目的の客と観光のついでに寄る客の2通りがある。人通りは減っていないが、買物客は減っている。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・このところのような天候不順の時にはやや悪くなるが、前年実績は大体クリアできるのではないかと考えている。
		一般小売店〔衣料・雑貨〕（経営者）	・5月の暖かさで夏物商材全体の売行きはまずまずである。レジャー用の商品が売れ始めてきた様子から、景気全体の良さがうかがえる。今後もこの状況が続く。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・本来だと2～6月くらいまでは商品が動かなければいけないが、もうこれで一段落である。また6～8月と暖かくなるかと客が少なくなる傾向にあるので、まだ低迷をしている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・今月は比較的良かったが、おそらく2～3か月はこの状態が続く。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・新茶のよし悪しで追加注文の売上が大きく変わるが、今年は新茶前に極端に温度が下がったり、霜が降りたりしてダメージを受けた。どこの茶畑も品質を保持するのが大変で、やはりリピーターが少ない。
		百貨店（総務担当）	・社会の経済環境や天候不順の影響等で、しばらくは前年数字前後の売上で推移する。
		百貨店（総務担当）	・政府混乱の影響か、購買意欲が感じられない。
		百貨店（広報担当）	・客の買物に対する欲求は十分にあり、働き掛け次第で良い反応を示してくれている。ただし、参議院選挙をにらんだ政局が不安定で、株価も1万円を切るなど消費者心理に冷や水を浴びせることも多いので、相殺されて景気は動かない。
		百貨店（営業担当）	・不安定な気温で春商戦は負けに終わり、夏物にシフトしたが、動きが早すぎてすぐにクリアランス待ちになる。結局、単価の下落は免れない状況である。
		百貨店（販売促進担当）	・家族のための購入意欲やシーズンに必須の機能性商材は、必要なポイントさえ伝わって納得がいけば、消費につながるものと考えている。しかし、自分のために欲しいもの、ほんの少しの日常レベルでのぜいたくは、消費傾向としては少しうかがわれても、継続的な伸長が見えない。婦人服飾をけん引する「トレンドに刺激された衝動買い、トレンドが変化したための買換え」的な傾向が戻らない限り、大きな伸長が見込めないため、次の刺激策は秋冬になる。
		百貨店（業務担当）	・新聞記事等で景気はやや回復気味と言われているが、社会不安的な部分を含めて、一般小売業は前年に比べればまだだが、今後どう動いていくかは不透明である。少しはましになるのかというレベルくらいの期待しか持てない状況である。
		百貨店（営業企画担当）	・ファッション関連商品への購買意欲がもう少し上がってこない、現状打破は難しい。
		百貨店（店長）	・天候が安定したことで婦人服を中心に前年は確保できたが、消費者が我慢しきれず買いに出た感が強く、政治に対する不安や金融不安など根本的な部分の改善がみられず、景気回復までは至っていない。
		百貨店（副店長）	・客の買い方はまだまだ慎重である。
	百貨店（販売管理担当）	・客単価は前年並みでも1品当たり単価は依然として前年を割っており、本格的な回復には遠い。	
	百貨店（営業企画担当）	・客単価の低下は継続していく。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業企画担当）	・小幅ではあるが、ファストファッションブームが一巡し、百貨店に客足が戻りつつある。値下げ前の買い控えが懸念されるが、顧客ニーズにあった価格帯の提案次第では、好調さは保てそうである。
		スーパー（店長）	・3か月後は悪いまま変わらない。客の様子や来客数が月を追うごとに落ちており、その原因がまだつかみきれていない状況である。客は競合店の袋を持って当店で買物をし、また違う所に行くなど、いろいろな買い回りをしているようである。以前はそれがスーパーの袋だったが、今はドラッグストアやディスカウントストアの袋を持ってくる客もいるので、いろいろと安い所を見ながら買い回りをしている。
		スーパー（店長）	・全体的に景気が良くなっている部分はあると思うが、小売業としてみると、お金の使い方は趣味嗜好、必要な物だけと限られており、量目も必要な物、必要な分だけということが多い。
		スーパー（仕入担当）	・賞味期限切れ商品の販売、口蹄疫の問題と消費者の不安材料は多いため、消費回復は見込めない。
		スーパー（仕入担当）	・来客数はほぼ前年並みに推移しているが、単価下落の傾向はこの先も変わらない。
		コンビニ（経営者）	・客が節約に徹しており、客単価が低迷したままである。セールを継続することで売上を作っているが、体力勝負の様相であり、景気回復とは言いがたい状況である。
		コンビニ（経営者）	・店の前の再開発事業が終わったことで、今までと人の流れが大分変わってきている。朝、駅に向かって店の前を通る客が減り、その分、前の商業ビルで仕事をしている人が9時ごろからたくさん来てくれるようになってきている。再開発エリア自体が、今後どんどん認知されて客が増えるか、一度来たがこんなものかとなるかはまだ分からないが、2～3か月後は今月と変わらないくらいの来客数は見込める。
		コンビニ（商品開発担当）	・食事消費動向等が上向きような好材料が出る兆しがみられない。
		衣料品専門店（経営者）	・長期天気予報は冷夏の予想になっているが、旅行目的のある人や出掛ける予定のある人は買物に出るが、それ以外は我慢のスタイルが続くようである。
		衣料品専門店（経営者）	・春物の時期はダイレクトメール、チラシにかなり力を入れたにもかかわらず、4か月連続で売上を落としてしまった。夏物に期待しているが、なかなか良い状況が見当たらない。
		家電量販店（経営者）	・エコポイント制度の導入から1年が経過し、特にテレビは前年の実績が大きく、この夏の商戦はやや苦戦が予想される。一方、前年は冷夏によって低迷したエアコンの売上増に期待したい。
		家電量販店（統括）	・けん引役のテレビの不調が要因で、上期は不調が続く。
		乗用車販売店（経営者）	・整備は順調に入っているが、販売はエコカー減税があるにもかかわらず、2割減となっている。
		乗用車販売店（渉外担当）	・9月までのエコカー購入補助金継続やエコカー減税・免税のため、補助対象車を中心にやや良い推移のままで変わらない。
		乗用車販売店（営業担当）	・客の会話の中でも先行きがいまだに不安だというユーザーが多い。たんす預金をしているユーザーが多く、不景気と言いつつも持っている人はたくさんいるようである。
		乗用車販売店（販売担当）	・エコカー購入補助金の期間は9月までだが、大型トラックの営業ナンバーについては多分6月初旬で終わるということで、若干受注が増えてきたが、補助金がなくなる先行きは不透明な状況で、トラックの購入意欲が相当減っている。各社は新型車を追加したが、やはり価格が高いということで、ユーザーは買い控えをしている。8～10月以降の受注残も無く、先行きは厳しい。今後の景気は変わらない。
		住関連専門店（統括）	・現在がやや悪い状態である。良くなる兆しもなく、このまま継続して推移する。
		その他専門店〔服飾雑貨〕（統括）	・6月の子ども手当支給に期待したいが、デフレと消費マインド低下に変化はみられない。価格を下げると売れる傾向に変化はない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・子ども手当による消費の活性化ができるのか、貯蓄に回るのか、見定める必要がある。円高株安による景気後退も懸念材料である。
		その他小売〔ゲーム〕（統括）	・夏休みで学生がゲームを購入する場面が増え、業績は向上。また3Dテレビ、新型多機能情報端末の発売を待つ人達が買い控えを心配する向きもあるが、これらの人達は既存のゲーム好きな客層以外の参入も相当見込めるので、今月同様明るい話題である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（支配人）	・当店を利用している企業にも好調な企業とそうでない企業の差がはっきり出てきており、人数、単価が上昇している所がある一方、業績悪化を理由に会合を実施しない所もある。平均するとあまり変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・景気が上向き傾向と言われているが、旧態依然の営業を続けている個店は苦戦が続いている。
		スナック（経営者）	・例年のことだが、6～8月にかけてビアガーデンに客をとられる。当店のよう小さな店は固定客だけになるので、やや厳しくなる。
		都市型ホテル（支配人）	・販売量は前年とほぼ同額で推移する見込みであり、良くなるとは言えない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・婚礼希望の来館は減っているが、成約率は上がっているので変わらない。
		旅行代理店（従業員）	・先行受注状況が前年比で100%を上回らない。
		旅行代理店（従業員）	・羽田、成田の拡張による座席供給量の増加に期待したい。
		タクシー運転手	・これからの入梅の時期も、雨の日が多ければ乗車率が上がると思うが、参議員選挙中の客の減少、客の動きが心配である。
		タクシー（団体役員）	・今、業界はタクシー車両数の削減に取り組んでいるが、適正と言われる車両数には届いていない。タクシー需要が少ないなか、今の供給過剰状態を解消しない限り、営業環境はまだ厳しい。
		タクシー（団体役員）	・経費削減などで企業もタクシーを使えない状況なので、景気が少し良くなる限りは変わらない。
		通信会社（総務担当）	・いまだに景気の先行きは不透明なので、現在の状況が続く。
		通信会社（営業担当）	・インターネットと固定電話は堅調であるが、多チャンネルサービスについては伸び悩みが見込まれる。
		通信会社（営業担当）	・アナログからの地上デジタル放送化が前期末で山を越え、堅調になっているが、大きく上に振れる要素もない。
		通信会社（企画担当）	・2011年のデジタル化対応準備は依然順調で、ケーブルテレビ業界には追い風である。
		通信会社（営業担当）	・先行きの不透明感が変わらない限り、加入契約数が大きく回復する見込みが立たない。
		通信会社（営業担当）	・地上デジタル放送対策を待つ人が多いため、契約に至らない傾向にある。
		通信会社（営業推進担当）	・当社の商品や営業体制、価格戦略等に抜本的な改善策が見出せていない状況である。何らかの糸口が見つければ良くなるが、当面は厳しい状況が続く。
		通信会社（局長）	・3Dテレビが話題となっているが、まだ単価が高いので当社に貢献するほどのインパクトはない。
		その他レジャー施設 [ホール]（支配人）	・国内の経済に好転の兆しが見え始めると、再度の金融不安や朝鮮半島問題等の影響で株が暴落する。経済が安定しなければ家計も防衛型となり、余暇への出費は少なくなる。しばらくはこの状態が続く。
		その他レジャー施設 （経営企画担当）	・欧州危機に伴う株価の下落や、政治などが2～3か月先には落ち着いていることが前提となるが、夏休みの時期に入るためプロスポーツ関連商品、サービスに対する顧客のニーズは高まるものと期待している。
		その他サービス[立体 駐車場]（経営者）	・来客数は減ったまま増える様子がなく、極端に少ない日もある。
		その他サービス[福祉 輸送]（経営者）	・景気が明るくなるような話はないが、これ以上落ちるといいう話もない。今後のいろいろな事象によって変わりうる不安定な状況である。
		その他サービス[保険 代理店]（経営者）	・少なくとも現状維持で推移する。それでも数か月前と比較をすれば、現状維持であれば良いほうである。
		設計事務所（所長）	・皆が仕事がないこともあるが、建築物価が少し上がってきている。土地の動きも出てきてはいるが、様子見で出てきているだけで、実際の動きにつながりそうにはない。しばらくこの状態が続く。
		設計事務所（所長）	・新年度になったが、先の動きは全く読むことができない。まず仕事の確保が必要ということで、単価を下げてでも獲得をしているのではないかと考えている。不透明な状況で、大変心配である。
		その他住宅[住宅資 材]（営業）	・長期的に見ると、良い業種がかなり増えてきて景気が回復すると思うが、2、3か月ではそんなに変わらない。
	やや悪くなる	一般小売店[和菓子] （経営者）	・取引先の営業等の話では、どの地域も同業種であまり良い店がないということである。また、これから政府の子ども手当や減税など対策はあるが、それに対する期待感も少ない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		一般小売店〔家電〕 (経理担当)	・このままの天候不順が続くとエアコンの売上も見込めない。また、液晶テレビの材料も潤沢ではなくなりつつあるので、全体の売上が下がる。		
		百貨店 (企画担当)	・回復傾向がみられた3、4月に比べて、また消費動向の潮目の変化がみられる。欧州の金融不安による株安の影響も軽視できない。		
		衣料品専門店 (経営者)	・依然としてデフレ傾向にあることと、昨今の食品不安、欧州の金融不安、今日の政治不安ということで、買い控えが多い。		
		衣料品専門店 (店長)	・景気の悪い時期でも婦人衣料は落ち込みが少なく、紳士、子どもの順で販売数量が減っていくのだが、今回は婦人衣料の落ち込みが激しく、買い控えが深刻である。		
		家電量販店 (店員)	・不景気と言われているなか、何か奇抜な発想でもない限りは厳しい。		
		乗用車販売店 (店長)	・エコカー購入補助金がいつまで続くのか、みな不安がっている。補助金が無くなった時点で非常な逆風が吹く。政局で揺れる今の状況を考えると、景気は良くなる。また、日本の基幹産業である自動車業界への依存が大きい。		
		その他専門店〔ドラッグストア〕 (経営者)	・競合店の近隣への出店が決まり、同じパイを食い合う状態は今後更に加速されそうである。当社の強みを伸ばすことが前年より課題であるが、非常に時間が掛かることなので、全く追い付いていない。		
		その他専門店〔雑貨〕 (従業員)	・夏の賞与も大幅に削減される所が多く、売上増を見込めない。		
		一般レストラン (スタッフ)	・当店自体は赤字ではないが、従業員の給料も下げていないのでもうかっている。周辺では、駅近くでもテナントが出て空室となったビルが多く、結局東京一極集中で、当地域は悪い。		
		旅行代理店 (従業員)	・せっかく問い合わせ件数や受注件数が増えてきているにもかかわらず、口蹄疫の問題で旅行自粛や取り止めが増えてきている。また参議院選挙が近付くため、需要が落ちることが予測される。		
		通信会社 (営業担当)	・同業他社が大攻勢を掛けるという情報もあり、当社としては苦戦が強いられる。地上デジタル放送移行をきっかけに、どこまで加入を伸ばせるかは未知数である。		
		遊園地 (職員)	・消費マインドの冷え込みからの脱却を期待できる要素が見当たらず、消費者の支出抑制傾向はまだ続く。		
		その他サービス〔学習塾〕 (経営者)	・全体的に人数も増えず、各塾の授業料も減らしているのので、減収になりつつある。まだ景気の回復は望めない。		
		設計事務所 (所長)	・経済の低迷で明るい兆しが全く無い。		
		設計事務所 (所長)	・今の状況の中で計画とかそういう情報がほとんど見当たらない。いずれにしても、非常に厳しい状況に変わりはない。		
		住宅販売会社 (従業員)	・契約数が落ちてきているので、先行きは厳しい。		
		住宅販売会社 (従業員)	・3月を頭に4、5月と客の動きが若干だが弱くなっている。2、3か月先もやはり秋までは客の動きがあまり良くないような気がする。若干落ちていく。		
		悪くなる		一般小売店〔食料雑貨〕 (経営者)	・オーバーストアのため、悪くなる。
				百貨店 (総務担当)	・まず売上が上がらないこと、そしてサラリーマンの給料が上がらず可処分所得が減っていることが一番の原因である。マスコミが悪いことだけを誇張していることが、消費者心理をマイナスに動かしている。
				コンビニ (経営者)	・政界も産業界も異常な混迷を極めている。そのような不安感から、商売上のお金や物の動きが非常に停滞する。
衣料品専門店 (経営者)	・春物商戦は消滅して一気に夏物セールになる様相で、商店街全体がセールの前倒しをしている。実際に暑い9月までの商戦を考えると、仕入等、不安が多い。				
都市型ホテル (経営者)	・デフレスパイラルの影響で、やはり客室、宴会の単価がすべて下がっており、回復傾向は全く見られない。これからも非常に厳しい状況が続く。				
美容室 (経営者)	・八百屋や魚屋が辞め、客の流れが悪くなっている。今後はますます悪くなる。				
設計事務所 (経営者)	・耐震診断の仕事は今年もしくは来年で一応終わる予定で、各市町村も95%完了したと聞いている。耐震診断以外の仕事も2~3件、話があるが、価格入札であり、低入札でないと仕事が取れない傾向になっているので、経済的には非常にひっ迫することになっている。				
企業	良くなる	-	-		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
動向 関連	やや良くなる	食料品製造業（経営者）	・まだ景気が良くなったという実感は無いが、周囲でぼちぼちそういう話を聞くようになったので、期待を込めて多少良くなる。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・印鑑については、法人設立が少し増えている。あとは個人客でも1人で2、3本の受注があり、個人客の需要もやや上向きになっている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・何社かは注文が増えてくるような取引先も出てきているので、全体的にはいくらか上向きである。
		一般機械器具製造業（経営者）	・少しだけだが、良くなる気配が見えてきている。売上は少し安定し、まだ金額はそう変わらないが、少しは良くなる。
		精密機械器具製造業（経営者）	・少しだけだが、新規の注文が入ってきた。今後これが伸びれば、やや良くなる。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・市場環境が回復している感がある。ただ、最近の世界的な不安定感の影響がどうなるかにもよる。
		金融業（渉外・預金担当）	・「やや明るさが見えてきた」状況が継続的になりつつある、というニュアンスの話を多く聞くようになっている。
		税理士	・大手電機メーカー等の決算が堅調だったため、明るい兆しが見えている。
変わらない		出版・印刷・同関連産業（所長）	・景気回復も期待したいが、それ以前に印刷業界を取り巻く環境が変化してきており、電子書籍、ホームページといったペーパーレスの時代になってきていることから、大幅な回復はなく、最低でも現状維持である。
		出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・景気が上向きであるとの指標が出てはいるが、すぐに業績に反映されるわけではなく、当面は経費の削減との理由で受注量の増加は見込めない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・今景気が良いのは、輸出関連と大手のごく限られた製品である。国内の一般需要は冷え切っており、この悪い状況は続く。
		金属製品製造業（経営者）	・この2、3か月、月を経るごとに総じて受注量が増えている傾向にある。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	・上向きのほうに期待を大きく感じるようになってきているので、ぜひ良くなって欲しい。急激に良くなるということは期待できないが、急に悪くなるということもない。
		その他製造業〔靴〕（デザイン担当）	・自分の身の回りでは変化が見られず、見当が付かないので、変わらない。
		建設業（経理担当）	・建設業界は不況の渦の中にまだいるようである。工事の案件はまだ少ないし、あっても予算がなく、低価格での競争が続くそうである。
		通信業（広報担当）	・中小企業の経営環境がここから更に改善するのは当面は難しいため、変わらない。
		金融業（役員）	・客の受注状況や利益状況、また、当社の各営業店の窓口を通じての客の依頼の状況、数から、変わらない。
		金融業（支店長）	・建設、不動産、製造業はなかなか厳しい状況である。売上等がまだまだ安定しておらず、戻ってきていない。資金繰り的にかなり厳しく、中小企業金融円滑化法の元金据置等をやっているが、改善の兆しがまだなかなか見えない。売上が安定するにはしばらく時間が掛かる。
		不動産業（総務担当）	・入居テナントの動向をうかがう限り、縮小するとか、移転統合するといった話があったりと、まだ当面の間は、企業のオフィス需要は低迷する。しかし、底は脱したという程度の感じはある。
		広告代理店（従業員）	・前年比で受注予定に変化がない。減も増もない。
		広告代理店（営業担当）	・冷夏との予報も出ているため、変わらない。
		経営コンサルタント	・子ども手当支給により、最寄品、買い回り品双方の消費に回ることを期待したい。
		経営コンサルタント	・3月決算企業の総会時期であり、商業、サービス業系の中小企業各社の新年度予算は、いずれも控えめな数字が大勢である。特に上半期は上昇に転ずるといった予測をしている企業が少ない。輸出企業の好調の余波が及んでくるには、まだ時間が掛かりそうである。
		経営コンサルタント	・回復の兆しは見えない。
		税理士	・中小企業はどこも悪く、全般的に消費も落ちていて悪い。新聞によると大企業は随分と業績が良く、北米は駄目だったが、中国やアジアの新興国に起因して良くなっている。それが日本国内まで、中小企業まではまだ来ていないようである。大企業が良ければ下請も良くなるはずなのに、そこまで来てないということは、以前とは大分内容が、質が変わっているということである。
		社会保険労務士	・良くなるという要因が見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・経済全体の雰囲気としてはやや上昇しているように思えるが、いまだ不安定で、今後どのようになるか、政治的にも国際的にも少し分からない。	
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・先行きの不透明感を払しょくできる材料があまり見当たらない。	
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・新規の見積依頼が無いので新しい事業を構築中のため、もうしばらく現状維持になりそうである。	
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・当面この状態が続きそうである。	
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・5月に入ってもまだ受注量の増加には至らず、継続的に減少傾向が続いている。工事の凍結をしていたマンションが工事再開を始めたりと良い状況になってきてはいるが、やはり供給戸数が伸びていかないと受注には結び付かないため、結果が出るのが遅くなる。	
	やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・更なる価格競争が起こる。	
		化学工業（従業員）	・建築設備関係者の話では、6月以降、大型の工事物件がほとんどなく、消耗品の使用も大きく減るとの話があり、商品の動きも停滞する。	
		プラスチック製品製造業（経営者）	・現時点で従来抱えている仕事の受注が大きく減るとは思わないが、営業に出て新企画の話もあまりなく、厳しい状況は続く。新企画の話があっても、どこかの顧客も海外生産になってしまい、当社に回することは皆無に近い。	
		金属製品製造業（経営者）	・海外向けの生産増は一時的であり、現地生産の準備ができれば、国内はまた暇になる。国内向けの生産が回復しないことには力強い回復とは思えない。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・経済全般の流れが業界にほとんど影響を与えておらず、なおかつここで参議院選挙を迎えるので、当分の間景気が良くなる要素はない。	
輸送業（経営者）		・納品先であるコンビニエンスストアの閉店が顕著に増加してきている。また、閉店後の店舗の空き状態が長期に渡っている。		
輸送業（所長）		・通常では考えられない配送料金で見積を提出されたからと、倉庫の返却と共に、運送でも来月から一部他社に取り込まれる予定である。それは大手企業からの見積であり、今までは考えられない環境になってきている。		
悪くなる	繊維工業（従業員）	・染色加工大手企業の繊維事業からの全面撤退や、東証1部上場企業が中国資本傘下に入るなど、周囲の状況から、国内繊維産業は製品製造ができなくなる可能性も生じており、危機的状況はさらに進んできたとみられる。		
	輸送業（総務担当）	・荷主の出荷計画は6月以降もこのまま推移する見込みであるため、悪いまま変わらない。		
	金融業（支店長）	・中小企業金融円滑化法による条件変更実施は、中小企業の資金繰り安定に大きく寄与し、倒産は大幅に減少している。ただし、先行きへの不安は大きく、新規投資に踏み切る企業は少ない。		
	広告代理店（経営者）	・8月は例年も夏枯れなので、はなから期待できないし、実際に現在の受注見込みもその路線のままで、ある意味、例年通りである。		
雇用関連	良くなる			
		やや良くなる	人材派遣会社（支店長）	・派遣形態から直接雇用への動きはあるが、派遣依頼も見込まれており、2、3か月先もやや良くなる。
		人材派遣会社（営業担当）	・参議院選挙があるので、マスコミの世論調査や地方自治体の投票、開票等で単発的な特需が期待できる。	
	変わらない	職業安定所（職員）	・4月は年間を通して新規求職者が大幅に増加する時期で、1月以降3月まで雇用情勢が回復傾向にあったが、4月で求人倍率が大幅に低下している。ただし、新規求職者は前年同期比では低下しており、雇用情勢は徐々に回復していく。	
		人材派遣会社（社員）	・中小企業の経営者たちと話したが、参議院選挙に向けて特に好転しているところは全く無い。参議院選挙の結果待ちという話が多い。	
		人材派遣会社（業務担当）	・ある飲料メーカーの配送拠点に人員を供給しているが、夏に向けた繁忙シーズンであるにもかかわらず、物量が増えていない。	
人材派遣会社（営業担当）	・各企業とも3月末決算の発表があり、業績回復の兆しが見えていっているように感じるが、人材業界へその影響がそのまま反映されるかは不明である。また、企業によっては、今年度上期中は現状維持となる方針を打ち出している。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（支店長）	・派遣だけではなく紹介や請負の相談が増えてきており、受注面については少し見込みが増えてきているが、労働者派遣法改正の成立後を見通して派遣取引の見直しを考える企業がが増えてきており、トータルで見るとV字回復にはほど遠い。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・採用市場の本格回復は来春以降と予測している。厚生労働省がうたう中小企業の採用支援策は、学生に情報が伝わりにくく、効果は限定的である。ただし、中途採用に関しては少し動きが出てきている。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・企業の業務が少しずつ増加傾向にあり、採用枠が若干であるが増えつつある。しかし、求人数と求職者数のギャップは依然として高いため、低コスト、低頻度の採用計画で採用を完結できるケースが引き続き多い。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・新規取引社数は増えているが、継続利用に至らない場合が多い。
		求人情報誌製作会社（編集担当）	・街や企業、商店の動き自体は以前と比べて元気が出ている気配を感じるが、人員を増やす域には達していないようである。医療、介護、有資格職の求人に関しては、相変わらず堅調である。
		職業安定所（職員）	・一部の事業所においては、受注量の増加から休業規模を縮小する事業所、一時的に休業を実施しない事業所が見られるようになってきているものの、大きな変化は無い。
		職業安定所（職員）	・求人数は増えている状況にはないので、これから就職者が増えるとは予想されない。
		職業安定所（職員）	・2、3か月でデフレスパイラルから抜け出せるとは思えない。
		民間職業紹介機関（経営者）	・同業各社とも前年比50%割れの状況である。求人数の増加を示す企業があるものの、その実は営業等一部職種に限られる。ホームページで求人募集をし続ける企業の中には、業績鈍化のイメージを与えないため「いい人がいれば」のスタンスである。4月以降、求人企業から紹介料率の引下げ要求が出されるケースが散見される。
		民間職業紹介機関（経営者）	・3か月単位でどんどん良くなるという感じは当然しない。少しずつ良くなってきてはいて、今は3か月前と比べて良くなってきているが、これからはそれほど感じるようには良くなっていかない。
		民間職業紹介機関（職員）	・実需的には回復してきているが、欧州、中国の今後の動向が見えず、心理面での不安要素が大きくなってきている。採用はその心理面からの影響に左右されるため、回復に水を差す可能性がある。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・企業の採用予定があるのかどうか電話で確認しても、「ない」「未定である」との返事ばかりである。
		学校〔専門学校〕（教務担当）	・今後の仕事の受注状況が全く分からないため、優秀な学生が採用試験を受験し、例年ならば完全に内定を出しているレベルの欲しい人材でも、企業側が内定の結論を出せないでいる。現在の内定率は前年同月の20%程度である。
やや悪くなる		求人情報誌製作会社（営業担当）	・求人数は変わらないかやや下がっている。
		学校〔専修学校〕（就職担当）	・採用予定企業の中で、採用中止や募集活動の延期を検討している企業が多数ある。
悪くなる		求人情報誌製作会社（広報担当）	・一度デフレスパイラルにはまると、抜け出すのはほぼ不可能である。景気が上向いて仕事が増えても、こちらの給料は下がる一方である。報酬と見合わない仕事はやってられないと、先月、今月と当社も大量退職が続いている。

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる		
	やや良くなる	百貨店（企画担当）	・正月や春の実売期を含めて、長期間で前年の売上を上回っており、一過性の回復ではない。少なくとも秋までは、このような緩やかな改善傾向が続く。
		百貨店（売場主任）	・土日の天候が良い日など、来客数は増加している。レジヤーに出掛けるよりは、近くで買物するという客が増加してきている。その反面、売場の靴メーカーは厳しい状況にあり、在庫を増やさないと生産数を減らしているため、サイズ切れで客対応できないこともある。これからメーカーの生産数が増えれば、売上も増える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売担当）	・商品を厳選する傾向はますます強くなり、売上点数が減少する可能性は高い。その反面、価値ある商品や上質な商品の動きは強くなるため、商品単価や客単価は上昇する可能性がある。ただし、この動きは百貨店には当てはまるもの、低価格を前面に出している店では、ますます価格低下が進行する。
		百貨店（販売担当）	・徐々にではあるが、定価品に対しても、今まで固かった財布のひもが緩んできた傾向が見受けられる。プレセールの開始時期が早まるため、6月の売上は厳しくなることが予想されるが、7月以降のセール本番の売上には期待が持てる。
		百貨店（販売担当）	・今夏のボーナスが前年を超えるという企業が、増えそうな様子である。ボーナス需要を見込んで、施策を打てば、売上の回復が見込まれる。
		コンビニ（企画担当）	・品ぞろえの価格帯をこの1年間で設定し直しており、主要な商品は少し安くなっている。天候、気温と円高といった悪条件が重ならなければ、今後は良くなる。
		コンビニ（商品開発担当）	・当地域は自動車業界の影響を強く受けるが、このところは自動車業界の業績回復に連動して全国平均を上回る月が続いているため、今後は緩やかに改善する。
		乗用車販売店（経営者）	・補助金がある9月までは、堅調に推移する。
		乗用車販売店（従業員）	・9月までは購入補助金があり、駆け込み受注が見込めるため、前年以上の数字を期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・客との話でも、補助金の期限の話題が頻繁に出ている。9月まではこの傾向が続く。今までは冷やかしか客も多かったが、財布を握る夫人と一緒に来店して、効率良く話を聞いて回る客が多い。家族で購入を真剣に検討している客が増えている。
		観光型ホテル（経営者）	・7、8月から、宿泊予約数は前年同月比で100%上回っている。7月以降は、回復の兆しがある。
		旅行代理店（従業員）	・国内航空会社の減便、撤退によるダメージは非常に大きい。増便するヨーロッパ系の航空会社もあり、ヨーロッパ方面への旅行申込の増加が見込まれる。
		通信会社（サービス担当）	・光インターネットの提供エリアの拡大と、新サービスのエリアの拡大があるため、未提供エリアからの注文が今後増える。
	変わらない	商店街（代表者）	・相変わらず必要以外の物を購入しない傾向があるため、売上にはつながらない。個人で使う商品が売れない限り、景気が良くなる材料にはならない。
		商店街（代表者）	・周囲では、所得が減少している人が非常に多い。子ども手当が支給されても即効性は期待できず、全体としては横ばいで推移する。
		一般小売店〔高級精肉〕（企画担当）	・参議院選挙を控え、中元ギフト商戦への影響が予想される。また、口蹄疫の流行により、牛肉、豚肉ギフトへの影響も懸念される。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	・良い日があっても、日にちが過ぎると悪くなることもあり、客の流れがつかめない。25日の給料日を過ぎて良くなるかと思っても良ならず、このような不安な状態が続く。
		一般小売店〔惣菜〕（店長）	・これから中元シーズンに入るが、夏のボーナスに期待できない現状では、急に回復することはない。
		百貨店（売場主任）	・相変わらず、客の購買意欲は感じられない。このような動きは、まだ続く。
		百貨店（企画担当）	・1、2月までは、セール商品など低価格商品に消費が集中していたが、最近は価格が比較的高くても良い物、欲しい物が購入されている。6月の子ども手当の支給開始も明るい話題であり、消費を刺激する。現在の好調な売上は、しばらく続く。
		百貨店（企画担当）	・商品単価、買上客数共に、下げ止まりを見せている。しかし、全体の数量は増えていない。割引セールやポイントアップなどを連続して実施することによって、なんとか売上を確保しているのが現状であり、このままでは息切れすることが目に見えている。
		百貨店（経理担当）	・外商関連や一部の商材において、景気回復の兆しが見られる。ただし、まだ力強いものではない。
		スーパー（経営者）	・全体的に不安定要素が多く、消費にお金を回すところまでは来ていない。子ども手当も、景気回復にはあまり貢献しない。大企業の輸出が伸び、その恩恵を中小企業が受けるには時間が掛かるため、景気はまだ良くならない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・上質な商品や単価を上げた商品などに対しては、特売時のような活発な購買意欲はない。特売時や話題商品、新商品ばかりが活発なようでは、全体の消費を押し上げることはできない。
		スーパー（店長）	・動きが良くなっている商品も増えてきているが、今後すぐに良くなっていくとは考えにくく、今の現状が続く。
		スーパー（営業担当）	・子ども手当が支給されるが、先行き不安があり、消費に大きく貢献はできない。
		スーパー（販売担当）	・給与所得が増えないため、今後も現状並みが続く。
		コンビニ（エリア担当）	・必要品以外は購入しない傾向は、当面継続する。
		コンビニ（店長）	・4、5月と低温が続いており、飲料水、アイスクリーム類の売上が伸びない。6、7月もこのような傾向が続くと、低水準のまま変わらない。
		コンビニ（店長）	・夏が暑くなれば飲料の伸びを期待できるが、前年のような冷夏だと、大きな変化は見られない。
		衣料品専門店（経営者）	・景気は底を打ったと言われているが、消費者の財布のひもは予想以上に固く、セール品でも長時間品定めをして、結局は購入しないという客が増加する。
		家電量販店（店員）	・来月にはパソコンの夏モデルや新規OSの発売があるが、問い合わせもなく、盛り上がり欠けている。
		乗用車販売店（従業員）	・補助金の効果で、9月ごろまでは現状並みが続く。
		乗用車販売店（従業員）	・これから夏のボーナスが支給され、エコカー補助金の期限を迎える。7月をピークに、駆け込み需要が期待される。ただし、客との会話のなかでは「この先わからない」という言葉が必ず聞かれ、財布のひもはますます固くなっていく。
		住関連専門店（営業担当）	・建築業界は構造的な不況業種になっており、需要と供給のバランスが損なわれている。具体的には、公共投資の新築物件が減少し、民間の工場、オフィス、分譲、持ち家住宅もこれ以上増えるのは難しい。その反面、リフォーム物件も出てきているが、先の見えない景気のなかで、単価が高い物件は出ていない。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・6～8月は、会社によってはボーナスが出るため、商品購入の動きもあるはずである。
		高級レストラン（スタッフ）	・前年大幅に下落した客単価は、回復しつつある。しかし、来客数は相変わらず底ばいにある。客単価の上昇がいつまで続くか、楽観できない状況にある。
		一般レストラン（経営者）	・良くなる要素は見当たらない。
		一般レストラン（スタッフ）	・相変わらず大口注文が見られないことから、すぐに景気回復することは見込めない。
		スナック（経営者）	・ボーナスが出るため、街の人通りも少しは賑やかになる。客からも、企業は少しずつ回復しているとの話が聞かれる。しかし、給料やボーナスに大きく還元されることはないため、繁華街はまだ厳しい状況が続く。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・社会がある程度安定すれば、良くなる雰囲気が出てくる。しかし、消費者の不安により、財布のひもが固い状態は続く。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数に変化は見られない。
		都市型ホテル（支配人）	・6月の宿泊予約は、単価が上がらないなど、悪い状態が続く。
		旅行代理店（経営者）	・不安定な状況下で、企業、生活者共に財布のひもは固い。ギリシャ財政危機に伴う経済不安やタイの政情不安等の影響が、旅行需要にマイナスになる。
		ゴルフ場（企画担当）	・4、5月と来場者数は良くないが、今後も梅雨時から夏場にかけてゴルフ場の条件は悪くなり、しばらくこのままの状況で推移する。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・主要分野に新製品が投入されるため、出荷量の増加が見込まれる。しかし、薄利商品のため、収益にどう影響するかはわからない。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅版エコポイント制度による効果は、まだはっきりとは見られない。家電関係ではエコポイント効果があったようであるが、今後どう影響していくか、見極めが難しい。
	やや悪くなる	百貨店（営業企画・販売促進）	・クリアランスセールの動きが読めない。これまでは前倒しや早期の値下げもあったが、今は定価品が若干好調であったり、メーカーの生産制限による品不足という要素もあり、苦戦が予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		コンビニ（店長）	・雨が多く気温も上がらないため、ジュース、ビールなど飲料の販売量が増えない。この時期に売れないと、今後も厳しい。		
		コンビニ（経営者）	・給料日の25日過ぎの動きに注目しているが、落ち込みをカバーできていない。店売りも、バックではなくバラで売れている。消費はシビアになってきており、今後は一段と厳しくなる。		
		コンビニ（店長）	・たばこの売上が、大きく減少している。10月の増税を意識し、本数を減らしたり禁煙に挑戦する傾向もあり、今後も厳しくなる。		
		衣料品専門店（販売企画担当）	・夏物が売れていないので、今後の生産にもつながっていない。		
		都市型ホテル（経営者）	・個人消費は、回復しにくい。経済情勢等に不安材料が多すぎる。		
		旅行代理店（経営者）	・まだまだ悪くなる。転業も含めて、考える必要性もある。売上が増える要素よりも、減る要素のほうが多い。		
		旅行代理店（従業員）	・今年は冷夏になるとの予想がある。また、参議院選挙が控えているが、選挙の年は旅行が減る。		
		タクシー運転手	・朝や夜の通勤時間帯の利用客数が減少している。また、中型タクシーよりも小型タクシーを探して利用しており、少しでも安い運賃を求める傾向を強く感じる。この状況は今後も続く。		
		パチンコ店（経営者）	・周辺では、競合店の販促が激化してきている。		
		設計事務所（経営者）	・将来の実施設計につながる計画案件が、極端に少ない。現在の実施設計は変更事項が多く、手間が掛かる割には設計料も安い。		
		住宅販売会社（企画担当）	・住宅の商談をすると、年収の増加が期待できない、先行きが不安との話題が多く、契約には結び付かない。この先も同じ傾向が続く。		
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔室内装飾業〕（経営者）	・将来につながる問い合わせ等がない。		
		悪くなる		商店街（代表者）	・エコポイントの効果は一巡しており、今後新たな刺激策がない限り、良くなっていかない。
				百貨店（外商担当）	・店としてどうあるべきかを考え、客に対してより良いサービスをアピールし、来客数を増やしていかない限り、悪い状況は続いていく。
スーパー（経営者）	・客の動向は悪い状況が続いており、今後良くなる要素もない。				
その他専門店〔貴金属〕（店長）	・買い控えの状況をみると、客には余裕のなさを感じられる。景気回復はまだまだ見込めない。				
一般レストラン（経営者）	・客の財布のひもは固く、来客数が増える気配は感じられない。				
住宅販売会社（経営者）	・少子化で住宅購入者の絶対数が徐々に減少しているため、良くなる傾向にはない。				
住宅販売会社（従業員）	・住宅版エコポイントの申請が増えるようには思えない。申請手続きも非常に面倒であり、住宅産業の活性化にはつながらない。				
企業動向関連	良くなる やや良くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・中国向けに加えて、米国向けでも輸出は増加傾向にある。リーマンショック直前の売上にまで回復することは、確実である。		
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・取引先では新機種が立ち上がってきており、実用化されると受注量は増加する。		
	輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・エコカーへの補助金が9月になくなっても、それをカバーするだけの輸出があると見込まれる。			
	輸送業（経営者）	・海外展開も含めて、各業種では具体的な動きが開始されたことに伴ない、国内外共に設備、在庫、部品の移動が活性化する兆しが見られる。			
	輸送業（エリア担当）	・中国、韓国、台湾では貨物量が増加しており、日本もこれに続く。			
	不動産業（開発担当）	・取引先企業の動向をみると、住宅需要は手堅く回復していき、			
	変わらない	食料品製造業（企画担当）	・受注量、販売量は低調ながら変化していないが、販売単価は下落傾向にある。その一方で、原材料価格は高騰傾向にあり、利益を圧迫しつつある。コストカットのなかには、販売促進費や人件費も含まれるため、消費に対してもマイナスの影響が予想される。		
化学工業（企画担当）	・欧州経済には悪化懸念があるが、中国など新興国の好調と米国の回復により、全体的には変わらない。				

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（従業員）	・仕事量は少し出てきているが、原材料価格の値上げにより、利益確保は難しい。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・1か月以内に発注を決定するとか、設備の納入期限が年内といった具体的な引き合いが増えてきており、北米の自動車産業の景気は上向きになっている。しかし、一度低下した価格は戻らず、価格競争は厳しいままである。受注できて利益がでない状況は、今後も続く。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・韓国、中国向けを拡大しているが、競合先との価格競争があり、大きな期待は難しい。
		輸送用機械器具製造業（財務担当）	・得意先では生産量が落ち込むと見込んでいたが、横ばいで推移する見通しである。
		建設業（営業担当）	・悪くなると思うが、仕事量は変わらないため、どちらとも言えない。
		輸送業（従業員）	・石油製品の値上がりが続いており、じわじわと経済活動にも影響してくる。物流業界では、主燃料の軽油やフェリー利用料の上昇により、経営は既に苦しくなっている。
		輸送業（エリア担当）	・当社だけでなく、業界大手が苦戦している。先行きに荷物が増える要素もないため、景気は横ばいである。
		輸送業（エリア担当）	・荷物量は増えてきているが、単価が低下しているため、利益は増えていない。その結果、社員の給料も増えておらず、景気は良くならない。
		金融業（従業員）	・建築関係以外でも、先行きが不透明なため数か月先は分からないと話す客が多い。今後も現状と変わらない。
		金融業（企画担当）	・自動車関連では、季節工や外部委託が少しずつ増加しているものの、このような回復が安定的に続かない限り、貯蓄に回るだけで消費には結び付かない。個人が安心して消費に回せるようにならない限り、景気回復は難しい。
		広告代理店（制作担当）	・今までと同じ内容の案件でも、金額は削られている。まだまだ景気回復は見込めない。
		行政書士	・景気回復はまだまだ先と話す事業者が多い。
		会計事務所（職員）	・建設業者に限らず、病院等のサービス業、卸売・小売業などでも先が見えない状況にある。
		会計事務所（社会保険労務士）	・以前は数か月先まで仕事の見通しが立っているという顧客先が多かったが、今はせいぜい来月分までという企業が多い。これ以上悪くはならないが、良くもならない。
		その他サービス業〔広告印刷〕（従業員）	・受注量が多少増えてきたとはいえ、このまま増加していくとは思えない。様子見の状態が今後も続く。
やや悪くなる		紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）	・原材料シートや原紙の価格が、東京を中心に低下しつつある。物の動きが悪いため、段ボールを値下げして、受注量を確保しようとする動きが活発になっている。この状態は長引き、受注量は減少し販売価格も低下する。
		印刷業（営業担当）	・景気が良くなるような動きは、周囲を含めて全くない。なかなか出口が見えてこないため、今の状況よりも悪くなる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・価格の精査、値下げ要求などは、今後ますます厳しくなる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・原材料である鉄鋼の値上げが5月から実施されているが、それらを客先へ価格転嫁しようとしても、受け入れられない状態が続いている。7月からは再値上げがあるとの情報もあり、売上は今後も減少する。
		金融業（法人営業担当）	・中小メーカーでは、原材料価格の上昇による取引条件の悪化をカバーできるほど売上が回復しておらず、全体的に企業業績が悪化している。内需中心の小売、サービス業においても、売上は低迷しており、先行きに明るさはみられない。
		不動産業（管理担当）	・ユーロ不安でますます悪くなっている輸出企業のため、オフィス需要の低迷は続く。
		広告代理店（経営者）	・地方では自治体やその外郭団体からの受注に依存している企業も多いが、事業仕分けによって、先行きが不安になってきている。
悪くなる		窯業・土石製品製造業（経営者）	・窯業界では住宅着工件数が景気の先行指数となっているが、前年1～3月期の累計と比べて10～12月の累計は減少しているため、今後の景気は悪化する。
		金属製品製造業（経営者）	・引き合いが減少している。見積から受注までの交渉も、厳しさを増している。
		不動産業（経営者）	・大手企業の倒産危機もあり、金融機関からの短期運転資金の調達はまだまだ困難である。
		公認会計士	・金融機関への返済猶予の結果、淘汰されるべき企業の破たんが先送りされているため、今後は破たんが増加する。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・上期中は営業活動を重視しており、受注は下期になる。その間は、小規模の仕事でつなくことしか見込めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
雇用 関連	良くなる	民間職業紹介機関（支社長）	・新規求人数は上向いているため、今後は良くなる。ギリシャ財政危機に伴うヨーロッパの経済情勢と朝鮮半島の動向が気になるが、それが回避できれば景気は確実に上向く。
	やや良くなる	人材派遣会社（経営企画）	・今後も派遣需要は増えていくことが見込まれる。
		人材派遣会社（社員）	・先を見越した中途採用の求人が、少しずつ増加してきている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・求人数に加えて、就職数も前年同月比プラスに転じている。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・求人数は、東京近辺や名古屋では少しずつ出てくる。しかし、浜松では、ほとんど出てこない。この状況は、1年以上続いている。
		人材派遣会社（社員）	・来月の法人からの予約状況は、例年と比べて3割ほど少ない。
		人材派遣会社（営業担当）	・当面、先は見えてこない。需要が見出せば供給は難しくはないが、現状では需要は先細りしている。
		人材派遣会社（支店長）	・求人数の大幅な増加はない。ここ2～3か月間は、求人数が大きく増えることも減ることもない見込みである。
		人材派遣会社（支店長）	・企業の派遣活用は、今後、困難になっていく。全国的な傾向としては、派遣市場の縮小に反比例して、委託事業は前年同月比2けた成長しているため、当地区でも同様の動きになる。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・製造業は回復傾向にあるが、慎重な動きも見られる。自社で直接雇用する期間工が多く、その次に特に3か月以内の短期派遣の注文がくるため、まだ景気は好転しない。
		求人情報誌製作会社（企画担当）	・回復基調にはあるものの、今年度に入って以降やや足踏み状態にあり、今後も横ばいが続く。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・新聞への求人広告を見る限り、底が見えたとは言いきれず、回復にはもう少し時間が掛かる。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・中小企業の新卒求人が低調であり、先行きの雇用の改善は考えにくい。新卒求人は過去10年間で最低レベルで推移している。底ばい状態は、しばらく続く。
		職業安定所（所長）	・求職者数は減少傾向にあるが、求人数の大幅な増加は見込めない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は、前年同月比でマイナス2けたの状況に変化はなく、今後も変わらない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数、有効求人倍率は、共に悪化している。また、新規常用求職者のうち、在職者と無業者を除く離職者については、事業主都合の離職者が人数、構成比共に前月と比べて増加している。また、この半月間で、主に倒産による10人以上の離職情報が増えている。以上によって、今後も厳しい状況が続く。
		職業安定所（職員）	・求人数がほぼすべての産業で2年前の50～60%にあることや、一部企業では部門の廃止、統合等による解雇や希望退職者を募集していることから、それほど良くなるとは感じられない。
	職業安定所（職員）	・企業の先行き不透明感は、まだ強く感じる。そのため、今後雇用や設備投資等が増えることもあまりない。	
	職業安定所（職員）	・景気の回復の兆しはあっても、求人にはなかなか反映してこない。	
	学校〔大学〕（就職担当）	・短期間で雇用情勢が改善するとは考えられない。	
やや悪くなる			
悪くなる	-	-	

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	衣料品専門店（総括）	・徐々に売上が上がってきている。リーマンショックの影響もかなり薄れ、景気が回復傾向にある。
		通信会社（営業担当）	・新商品が全て出揃う時期でもあり、販売価格に差も出始めと思われるため、販売台数が伸びてくる。
	やや良くなる	一般小売店〔精肉〕（店長）	・ゴルフの景品の受注や外商部門が活発になっており、先行きの売上は少し明るい見通しである。
		コンビニ（経営者）	・スイーツにヒット商品が出ており、コンビニのデザートに注目が集まり、他のデザートによい影響を与えている。売上は全体として上昇傾向にある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		家電量販店（経営者）	・テレビの売上が全体の売上を大きく左右するが、3Dテレビはまだ数量としては低水準であり売上には貢献しない。省エネタイプのLEDテレビは期待が持てる。
		旅行代理店（従業員）	・中国のビザ発給基準の緩和で中国人などの観光客が増加する。
		旅行代理店（従業員）	・製造業や自動車関連小売業などの業績回復が、今後の福利厚生費や販促費などの戦略的MICE（インセンティブ旅行、展示会等）需要への活性化に期待が出来る。
		通信会社（営業担当）	・携帯電話の繁忙時期も終わり、新規契約に至る客は低迷しているが、例年に比べ機種変更の需要が増加傾向にある。
		美容室（経営者）	・地元の商工会議所が6月にプレミアム付き商品券を発行する予定であり、多少期待している。
		住宅販売会社（従業員）	・特に増改築は前年比大幅な受注増加となり、エコポイントの浸透もあって、今後も安定した伸びが期待できる。これにつれて景気回復による心理的不安からの脱却がみられ、新築部門も期待できる。
		商店街（代表者）	・冷夏予想のため、好転は望めない。
		商店街（代表者）	・このところ寒いほどの気候が続いており、このまま冷夏か、あるいは一転して猛暑となっても、今までの消費パターンが変わるとは思えない。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・財布のひもの固い客の買い控え傾向が改善するとは、現状では考えられない。
		百貨店（売場主任）	・前年は新型インフルエンザが大きく販売金額に影響を与えたが、現在、来客数は伸びているにもかかわらず、まだ客の消費意欲が高揚されていない。衣料品などは新たなスタイリングを取り入れるよりコーディネートで低単価の商品で済ませることが多くみられる。
		百貨店（営業担当）	・今後も最低限度必要なものを十分吟味して購入する消費者の購買行動に変化はない。シーズン品、し好み、ぜいたく品は増加傾向の予測はあるが、大きな影響を与えるとは考えにくく、回復までには時間がかかる。
		百貨店（営業担当）	・買い控えに対しての客の我慢が限界に近く、2～3か月先の夏物セール時期には来客が見込まれるものの、セールスタートの1～2週間前には、例年に増して買い控えが見込まれ厳しい状態となることが予想される。全体では、夏物の売上が上乗せできる要因はない。
		百貨店（売場担当）	・収入増加が見込めず、売上増が期待できない。
		スーパー（店長）	・客単価は、ここ2～3か月前年水準を維持しているが、今後上がる要素がない。夏の賞与の回答状況によっては、なお一層の節約傾向がみられるかもしれない。
		スーパー（店長）	・景気を刺激する要因が不透明な状況は変わらない。中でも、子ども手当支給でどれだけ消費されるかが疑問である。エリア全体での消費活性化につながる期待感は薄く、前年と同様一時的で景気全体を押し上げる刺激剤になるとは思われない。
		スーパー（店長）	・子ども手当の支給が始まるため、多少の景気回復につながると思われる。
		スーパー（総務担当）	・売上高を維持するために競合店との価格競争は今後も続くが、消費が増加していないため今後も地区別に客数減少、客単価低下が発生する。
		コンビニ（店長）	・3、4、5月だけでみると横ばいが続き、特にゴールデンウィークは期待したほど売上も来客数も伸びなかった。6月は伸びる要素がないが、7、8月は天候次第だが良くはなってくるであろう。今後下がることはないが、極端に上がることも考えられない。
		コンビニ（店舗管理）	・低価格商品への反応の高さが、現在の閉塞感を如実に表しているように感じる。
		衣料品専門店（経営者）	・客のニーズに応えられている店は売れ始めており、客への対応によって優劣が明確になっている。経営戦略的に大変難しい。
		衣料品専門店（経営者）	・簡便な生活を送ることが定着している。商売人としてはさびしい話だが、喜ぶべきことなのかも知れない。
家電量販店（店長）	・夏の天候次第で大きく左右されるが、現状のまま販売量が上がっても、単価が低く推移しそつである。		
乗用車販売店（経営者）	・景気見通しがよくなる限り、また、実収入が増えない限り財布のひもは緩みそうにない。		
乗用車販売店（経営者）	・新型商品等の導入を予定しているのでしばらくは維持できる。		
乗用車販売店（経理担当）	・補助金の延長期間である9月までは比較的好調に推移していく。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		自動車備品販売店（従業員）	・集客は大きく変動しない予想だが、高単価商品は目玉になる商品群も無く依然として厳しい。
		住関連専門店（店長）	・現在の状態がかなり続いているなか、急激に変わるとは思えない。特に今の10～20代は物欲がないように感じる。このままでは今後の消費は少なくなっていく一方である。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・先行きが全く見えない状況が続いており、この状況に変化はない。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・地場の生産メーカーでは受注が上がっているようだが、海外生産にシフトしているようで、身近なところに好影響がない。
		高級レストラン（スタッフ）	・料亭の6月は、法人の株主総会後の会食で潤うが、今年は会食をしない企業があり、単価も下がっており、地方の中小企業の厳しさに変わりはない。
		一般レストラン（スタッフ）	・口蹄疫の問題で牛肉・豚肉の相場が値上がりし始め、気温異常で秋の米の収穫にも不安が出ているなか、大手が原材料の囲い込みに動き始めており、原材料の値上げによる利益圧迫が懸念される。しかし、スーパーの肉や野菜が値上がりすると外食の方が得と感じる人もおり、来客数の傾向は変わらないと思われる。
		観光型旅館（スタッフ）	・予約保有は5月は前年同月比105%、6月は同120%と前年よりは状況は良いと言えるが、7月以降が同80～98%と先の予約が伸びてこない。5月後半で若干良くなっているが、安心できる状態ではない。前々年と比べれば4000～5000人少ない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会の受注状況、宿泊予約状況が低迷している。特に婚礼の受注状況が悪く、売上高は前年を下回る見込みである。
		都市型ホテル（スタッフ）	・企業関係の宴会予約は好調である。
		タクシー運転手	・働いている人の仕事が忙しくなり小遣いが増え、節約傾向が緩和しなければ、繁華街へも人出が戻らず、タクシー業界も低迷が続く。
		タクシー運転手	・無駄な経費を抑えるのが常になっており、会社関係、一般も同様の状況となっている。
		通信会社（職員）	・夏商戦本番に向けて、大きな前兆が見受けられない。
		通信会社（役員）	・ケーブルテレビ多チャンネル契約の県内普及率は40%を超え、全国平均が20%の約2倍となっており、今後伸びる余地には限界があるものと予想している。
	住宅販売会社（経営者）	・受注量の比較では現状と変わらないであろう。	
	住宅販売会社（従業員）	・客の動きは増えていない。また、動いている客層は限定的であり、今後契約件数及び契約額共に増加するとは考えにくい。	
	住宅販売会社（従業員）	・リフォーム工事の受注は増えていると思うが、新築工事の受注はさほど期待は持てない。	
	やや悪くなる	スーパー（店長）	・パート社員を採用するにあたって、面接の段階で非正規社員では将来の不安を訴える人が多くなった。
		スナック（経営者）	・このまま中小企業や商店がよくない状況では期待ができない。
		観光型旅館（経営者）	・平日の集客が悪く、トータルすると例年よりも集客が低下している。
		テーマパーク（職員）	・円高により海外からの観光客にブレーキがかかる懸念があるものの、一般団体客や海外からの観光客は持ち直しの傾向にある。しかし、個人客は消費や所得が冷え込んでいるため、大きな回復が望めない。
競輪場（職員）		・昨年に比べ売上額が全体的に下がっている。	
住宅販売会社（従業員）		・製造業の生産調整も落ち着き、企業の収益も改善しているが、売上高の伸びは期待できない。また収益改善が従業員まで感じられる状況には無い。個人の消費意欲はまだまだ弱い。	
悪くなる	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・製造業などは景気が回復してきたと言われるが、中小企業ではまだその影響はない。また、官公庁の予算も前年よりは減少しそうで、まだまだ厳しい状況が続く。	
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	繊維工業（経営者）	・ギリシャ財政危機にともなうユーロ安、円高による輸出関連の影響が懸念されるが、7～9月に向けての受注も想像以上に堅調に推移している。国内市場も安値一辺倒から少し変化が見られるのもありがたい。
		化学工業（総務担当）	・受注計画では増加する予定である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（経理担当）	・価格競争、特にアジア諸国の製品と日本製品との価格競争が厳しく楽観できないものの、数量的には回復傾向が続くであろう。
		通信業（営業担当）	・企業の設備投資も徐々にではあるが、上向いている感がある。パソコンなどの通信設備の需要も出ている。
		不動産業（経営者）	・飲食関連では不動産取引の動きは不振であるものの、その他の法人、個人関連は少しずつ取引に動きが出ている。
	変わらない	食料品製造業（企画担当）	・夏から秋に向けての商談が始まっているが、提案価格帯や販売先の期待する価格も安価で、なおかつボリュームのあるおいしい食品の路線だけが際立っている。
		繊維工業（経営者）	・春から天候不順が続いており、衣料関係は先行き不安である。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・産業資材は、家電向けや車両向けは動きが見え出したが、主流である住宅市場は全く先が見えない状況が続いている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・鋼材の値上げ、為替の急変等、収益面で影響が強く懸念される。
		精密機械器具製造業（経営者）	・ここ2、3か月はほぼ同水準の生産が続く予定であるが、いくつかの商品については在庫調整が早まるかもしれない。
		金融業（融資担当）	・機械製造業において回復の兆しがみられるが、持続して回復するかどうか依然不透明であり、現状維持が続く。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・ここ数か月間、売上高で前年同月比100%前後で推移しており、この状態が続きそうだ。
		司法書士	・マンションの売買はあるが、戸建てはほとんどない。また、個人住宅以外は動きがない。
	やや悪くなる	一般機械器具製造業（総務担当）	・対ドル、対ユーロとも円高傾向が強くなっており、海外からの引き合いが減速されると予想される。輸出が多い当社としては大変な状況になりつつある。
		税理士（所長）	・企業では受注量が増えているようだが、新たに人を雇用する状況にはなっていない。また、以前のような大幅減産のリスクもあるので、新たに人を雇う、給料を上げるといったことができず、激しい競争も続いている。個人消費が本格的に回復する見通しがなく、景気が長続きすることはない。
	悪くなる	建設業（経営者）	・5月に老舗の建設会社が工事量の減少により自己破産申請したが、今後も新幹線負担金に県の公共事業予算が取られ、地元向けの一般公共事業が減る中で、経営破たんする建設会社が増えるであろう。
		建設業（総務担当）	・異常な受注価格競争が続いており、状況はさらに悪化が見込まれる。
輸送業（配車担当）		・今後、急激に原油価格が安くなるとは思えず、ますます燃料費が上がる状況になっている。運送コスト増により利益を上げにくい状況がしばらく続く。	
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・周辺の企業の方々が、明るい話題を口にするようになった。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・労働者派遣法改正に備え派遣の利用が控えられており、最近パート採用が増えている状況である。派遣業界の復活には厳しいものがある。
		人材派遣会社（社員）	・製造業関連で求人増はうかがえるが、派遣業への規制強化により厳しさは今後も続く。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・従業員を求める企業の求人意欲が上がってこない。
		職業安定所（職員）	・事業所訪問では、以前より仕事量が増加していると答える企業が増えているが、従業員を増加するまでには至らず、求人につながらない。
		民間職業紹介機関（経営者）	・労働者派遣法改正の動きは、さらに企業の雇用意欲を削ぐものとなる。
	やや悪くなる	-	-
悪くなる	-	-	

7. 近畿（地域別調査機関：リそな総合研究所（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	商店街（代表者）	・消費者の節約疲れにより、先行きはやや良くなる。
		一般小売店〔コーヒー〕（営業担当）	・今年のゴールデンウィークは売上が増加しなかったものの、予想したような大幅なダウンとはならなかったため、今後はやや良くなる。
	百貨店（売場主任）	・リニューアル後は前年以上の動きとなっているため、今後も少しずつ良くなる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場主任）	・景気回復が進む大きな要素は見当たらないが、ファッション関連では価格よりもトレンド感のある物や、価値を共感できる物の購入が目立っている。アパレル業界も活気付いてきているため、今後はやや良くなる。
		百貨店（企画担当）	・景況感の悪化や、前年のような新型インフルエンザの流行といった外的要因の悪化がなければ、消費者の間にも節約生活から抜け出したいという気持ちが出てくる。
		百貨店（マネージャー）	・ボーナス支給額が前年よりも増えるため、景気は少しずつ回復してくる。
		百貨店（婦人服担当）	・前年は売上が大きく落ち込んだため、天候が安定すれば売上はある程度良くなる。
		スーパー（店長）	・身の回りの景気回復は内需中心となりつつあるが、先行きは子ども手当の支給効果によりやや良くなる。
		スーパー（社員）	・以前に比べて広告やイベントに対する客の反応が良くなり、多くの買物をする客の姿が目立つようになっている。これから夏に向けて、客の消費意欲が更に高まっていく感がある。
		スーパー（企画）	・前年は6月から新型インフルエンザが流行し、外出を抑える動きが目立ったため、今年はその落ち込みがないだけ良くなる。
		コンビニ（経営者）	・冷たいめん類と一緒に揚げ物を買う客が増えるなど、客単価が伸びているため、先行きはやや良くなる。
		コンビニ（店長）	・コンビニでは来客数が戻りつつある。客単価は相変わらず低下傾向にあるものの、来客数が確保できれば前年の売上はクリアできる。
		コンビニ（マネージャー）	・通行客が増えつつあるため、長梅雨にならない限り、夏物商材を中心に購買が増える。
		乗用車販売店（営業担当）	・ボーナス時期に向けて新車購入を検討する客が増えているため、先行きはやや良くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・補助金の期限前の駆け込み需要がある程度は出てくるため、9月までは受注台数が増える。
		住関連専門店（店長）	・客の様子がやや明るく、大らかになってきた感がある。目的の商品以外にプラス1点を買って足す客も少し出てきたため、先行きはやや良くなる。
		住関連専門店（店員）	・値下げ競争が続くなかで何とか利益を確保してきたが、徐々に頭打ちになっている。今後は、売手、買手共に価格よりも品質を重視する方向に変わるため、やや良くなる。
		高級レストラン（支配人）	・販売量、単価、来客数共に、3か月前の水準を上回っている。外国人観光客も増えているため、見通しは明るい。
		一般レストラン（経理担当）	・最近の来客数の回復は、前年の新型インフルエンザによる落ち込みの反動という面もあり、継続的な回復かどうかは判断が難しい。それよりも、増加傾向にある外国人観光客の来店を増やす方が確実である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊、宴会の先行予約が順調で、新型インフルエンザで落ち込んだ前年を上回っている。今後はアジアからの団体による予約も増えてくる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・景気が不安定なため楽観視はできないものの、宿泊の先行予約や宴会の引き合いが例年になく好調である。新規の法人客では、グレードの高いホテルからの移動といったケースもみられる。
		都市型ホテル（役員）	・前年の新型インフルエンザの影響を除いても、今までは違う動きが出始めており、レストラン部門を中心に売上が少しずつ伸びている。これで宿泊部門が伸びてくれば、景気は回復基調にあると判断できるが、予約の動きはまだまだ鈍い。
		タクシー運転手	・景気回復が報じられているため、先行きに多少期待が持てる。
		通信会社（経営者）	・今月末からは通信各社から新機種が投入されるが、携帯端末ではスマートフォンの人気が高いため期待が持てる。ただし、現在はスマートフォンの機種が少ないため、大きな動きにはつながらない。
		通信会社（企画担当）	・日本経済全体が好転しているため、我々の業界にも好調が波及してくる。
		テーマパーク（職員）	・修学旅行生を含めた団体のキャンセルもなく、先の予約は比較的順調に推移している。
		その他サービス [コインランドリー]（経営者）	・集客の増加をねらい、近隣に割引チケットをポスティングするため、先行きは若干良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔マッサージ〕（スタッフ）	・オイルマッサージで服を脱ぐため、暖かい時期になると客が増える。今年は例年よりも来客数のかなり少ない日が続いているが、最近になって少しずつ回復してきたため、今後はやや良くなる。
		住宅販売会社（経営者）	・売却物件の数は増えていないが、購入希望客は増えてきているため、将来的に成約率は上がっていく。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・住宅展示場への来場組数が増加傾向にあり、1回の来場で見学するモデルハウスの数も増えているため、今後はやや良くなる。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・子ども手当の支給開始で消費意欲が多少上向くほか、企業業績も上向き傾向であるため、先行きに明るい見通しを持つ消費者が増える。
	変わらない	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・この夏の売上は天候によって大きく左右されるが、参議院選挙もあり、良くなる材料が見当たらない。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・電池交換で持ち込まれる時計をみると、雑貨屋で買った値段の安い物が増えている。時計メーカーの製品ではなく、値段が安くて買いやすい時計を選ぶ傾向は今後も続く。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・変化する要素が見当たらないため、食に携わる商売は今後も厳しい。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・今後も気候は不安定となるため、売上は伸びない。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	・参議員選挙が近づくと消費者の購買意欲が低下する。
		一般小売店〔カメラ〕（販売担当）	・ゴールデンウィーク中はかなり上向きであったが、連休が終わると通常時よりも悪くなるなど、先行きの見通しは厳しい。
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・末端の小売店では売上が一向に伸びず、当店の商品も回転率が悪いなど、先行きに期待の持てる状況ではない。客が賞味期限を気にするため、どの店もあまり在庫を持たない状況が続いている。
		百貨店（売場主任）	・ファッションに対する客の関心は落ち着いており、夏物、秋物商戦に向けて大きく盛り上がる要素が見当たらない。また、客の間では二極化が顕著で、特にファッションへの関心が高くない客は、景気の先行き不安や政治への不信で購入マインドが左右される。今後は経済全体が好転しなければ、百貨店で積極的に買物するのは一部の客だけとなる。
		百貨店（売場主任）	・一部では動きの好転している商品もあるが、消費全体を押し上げる大きな要素は見当たらない。百貨店を取り巻く環境は今後も厳しいが、百貨店以上に厳しい状況の取引先もあり、生産の抑制や人件費の削減、販売促進費の抑制を行っている。これらは百貨店にとってマイナスの要素となる。
		百貨店（売場主任）	・先行きの予想が全く立たない状況であるが、クリアランスセールによって来客数は増える。
		百貨店（営業担当）	・魅力のある新商品がなく、客の動きも今一つであるため、今後の見通しは厳しい。
		百貨店（営業担当）	・高級時計やブランド品の高級バックへの引き合いは増えてきたが、株価の低迷などで実際の買上げにつながるかは不透明である。
		百貨店（サービス担当）	・天候の長期予想では冷夏となるため、農作物への影響が懸念される。また、今年は特に口蹄疫による物価への影響も懸念される。
		百貨店（店長）	・メーカーの業況は上向いているが、小売業まではまだまだ波及していないため、今後も客の財布のひもは固い状況が続く。
		百貨店（売場担当）	・高級ブランドのような高額品の売上が安定してきたほか、ここへきてニューミセス、ミセスといった比較的高い年齢層を対象とした商品が回復している。ただし、今後はユーロ不安による円高や株価の低迷で、高所得者の購買意欲が低下する懸念もあるため、トータルで考えるとあまり変わらない。
		スーパー（経営者）	・客は予算内で何をかうか毎日悩んでおり、最近には特にその傾向が顕著となっているため、今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（経営者）	・サッカーワールドカップの影響で内食化傾向が一時的に進むものの、政治不信、景気対策の不足、円高の長期化など、消費者の財布のひもが緩みそつな材料は見当たらない。業界各社も価格の見直しを進めているが、比較的好調なのは主にディスカウントを積極的に行っている業種である。
		スーパー（経営者）	・来客数の落ち込み以上に、単価の下落が大きい。都市部では景気が回復傾向にあると報じられているが、地方では良くなっている業種もなく、全体的に疲弊しているため、見通しは厳しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・日用品や食料品価格の全体的な低下傾向が続いているほか、来客数の減少も止まらないため、今後も厳しい状況となる。
		スーパー（店長）	・1品単価が上向くことは難しいため、客1人当たりの買上点数が増えない限り回復しない。また、来客数も回復傾向にあるものの、前年並みにまでは戻っていない。
		スーパー（店長）	・景気の上昇気運が広がっており、子ども手当も支給されるが、根本的な所得の増加にはつながらない。夏のボーナスも減少気味であるため、消費者の購買意欲は高まりそうになく、エコポイント制度による家電の売上も低迷しつつある。
		スーパー（店長）	・当地域は人口減少や高齢化の進行に打つ手がない状況であり、小売業にとって非常に厳しい状態が続く。来客にも高齢者が目立つほか、客単価の上昇もみられない。
		スーパー（企画担当）	・前月と今月の推移から判断すると、来客数と売上の前年比に格差のある状態が今後も続く。
		スーパー（経理担当）	・ボーナス増といった所得面での明るい兆しはあるが、株安や失業率の悪化といった悪材料もあるなど、まだら模様の状況である。夏商戦に期待したいが、梅雨が長引く予想もあるため、先行きは不透明である。
		スーパー（広報担当）	・ギリシャ財政危機で金融資産が目減りし、先行きの不透明感もぬぐえないため、消費に関する節約傾向は当面続く。
		スーパー（管理担当）	・消費者の買い控え傾向は今後しばらく続く。
		スーパー（販売担当）	・競合店は販促回数を増やすなど、少しでも客を取り込もうとしている。客も価格に応じて店を変えているため、今後も厳しい競争が続く。
		コンビニ（経営者）	・割引セールを行うと一時的に来客数は増えるが、客単価も落ちるため売上はほとんど変わらない。近隣オフィスの家賃がもう少し下がって入居率が戻るまでは、厳しい状況が続く。
		衣料品専門店（経営者）	・おしゃれを楽しみたいくなるような状況にならない限り、今後も変わらない。
		家電量販店（経営者）	・景気の良くなる要素や、消費者の景況感が高まる要素は見当たらない。政治への不安も含め、消費者の間に先行きの安心感が広がるには、もう少し時間が掛かる。
		家電量販店（店長）	・サッカーワールドカップによる特需にはあまり期待できない。2台目のテレビの需要はエコポイント制度の終了直前となる12月に高まるため、11月までは大きな山場は到来しない。一方、嗜好商品のテレビとは違い、生活必需品の冷蔵庫やエアコンは前年並みの動きとなる。
		乗用車販売店（経営者）	・ボーナス商戦に入るが、業者間の中古車の取引がかなり停滞気味で、販売の見込みが立っていない。
		乗用車販売店（営業担当）	・前年に比べて来客数がかかなり落ちてきているため、先行きの見通しは厳しい。
		乗用車販売店（販売担当）	・今年度中は状況に変化はない。
		乗用車販売店（営業担当）	・補助金による盛り上がりで、7～8月に市場は山場を迎える。
		その他専門店 [宝石]（経営者）	・ユーロ安の影響で当分の間は円安にならず、経済状態や株価水準も現在の状態が続くため、宝飾品への需要にも変化はない。
		その他専門店 [医薬品]（店員）	・来客数は一定の水準にあり、今後もこの傾向が続く。最近では、広告を入れた日は健康に関する相談が若干増えている。
		その他専門店 [宝飾品]（販売担当）	・賞与が支給されても、今年は宝飾品の購買意欲の上昇にはつながらない。
		一般レストラン（経営者）	・まだまだ天候不順が続くほか、客からの話でも景気回復にはもう少し時間が掛かる。
		一般レストラン（スタッフ）	・天候による変化を除けば、今後も大きな変動はない。
		一般レストラン（スタッフ）	・政治への不安や天候不順など、明るい展望を持てる状況ではなく、消費者の景況感も良くなっている感がない。小売業界でも低価格戦略の企業が優位性を保っている程度であり、全体の底上げ感が出てくるほどではない。
		一般レストラン（店員）	・感謝セールなどの催しもあるが、売上が今後大きく上昇することはない。
		スナック（経営者）	・個人的なつながりで来客が増える見込みであり、今後少しは良くなる。
		その他飲食 [ジャズバー]（店員）	・どの店も暇であり、今後も来客数は増えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル（経営者）	・西日本では平城遷都1300年祭の奈良と、龍馬伝の高知に人気が集中しており、そのほかの観光地は大きな集客イベントや話題性もないため、今後も厳しい状況が続く。
		観光型ホテル（経営者）	・秋までは平城遷都1300年祭が行われるため、現在の状態が続く。
		観光型旅館（経営者）	・良くなる理由が見当たらないため、今の状況が続く。
		観光型旅館（経営者）	・子ども手当が支給されても、レジャーへの支出はあまり増えない。
		観光型旅館（経営者）	・売上が伸びず、これといった原因もつかめないため、今後も厳しい状態が続く。
		観光型旅館（団体役員）	・景気が回復傾向にあると報じられているが、個人消費にまでは届いていないため、今後も厳しい状況となる。
		都市型ホテル（支配人）	・7月の参議院選挙が終わるまでは、今の動きが続く。
		都市型ホテル（営業担当）	・前年の5、6月は新型インフルエンザの影響で売上がかなり落ちたが、ホテル全体で例年並みに戻ってきている。宿泊は個人客の動きが良くなっているため、一般宴会の受注件数にも期待しているが、予約状況はまだ低迷している。
		都市型ホテル（マネージャー）	・夏休みを迎えて宿泊部門が好調を持続できるかが問題であるが、長期にわたって開催される奈良県のイベント効果には期待できる。ただし、宴会部門ではプライダルが競合施設の増加で苦戦続きとなっており、一般企業の予約状況にも回復感はないため、全体的に大きく上向くことはない。
		旅行代理店（経営者）	・高速道路料金の引下げ問題が国内の宿泊客数に影響するほか、欧州の不透明な情勢についても、ユーロ安が現地での買物にはプラスとなるものの、出発そのものを尻込みさせる懸念がある。
		旅行代理店（広報担当）	・客はお金を持っていないわけではなく、消費に回すことに踏ん切りがつかない。長期にわたって我慢が続いているため、今年の夏休みは旅行に行くとの声も聞かれるが、なかなか申込につながらない。この状況は夏を迎えても変わらない。
		旅行代理店（営業担当）	・経済、政治が不安定であり、旅行業界に薄日が差すまでには時間が掛かる。
		タクシー運転手	・気温が上がれば多少は客も増えるが、冷夏になればあまり増えない。
		タクシー会社（経営者）	・どうしてもタクシーが必要な人は今でも利用がみられるため、今後も現在の状態が続く。
		通信会社（経営者）	・特に変化の起こる兆しがないため、現在の状況が続く。
		通信会社（店長）	・特に良くなる兆しも、悪くなる兆しもない。
		通信会社（社員）	・現在の加入促進策による効果が全体的に低下してきている。打開策として様々なプランを検討しているものの、効果が出るかどうかは不透明である。
		通信会社（企画担当）	・好転する材料が見当たらない。
		観光名所（経理担当）	・前年は5、6月と新型インフルエンザの流行で来場者数、売上が大幅に落ち込んだため、前年比の動きは参考にならない。一昨年に比べると来場者数はほぼ同水準であるが、売上は落ちているため、今後も楽観視はできない。
		観光名所（経理担当）	・今月も寒暖の差が激しかったが、天候には比較的恵まれたことでゴールデンウィークは前年を上回る人出となった。その後も少しずつ来客数が増えているため、しばらくは好調が続く。前年は新型インフルエンザの影響でかなりの痛手を被ったが、今年は3月ごろから徐々に良くなっている。
		競輪場（職員）	・例年どおりの推移となるものの、ギリシャ財政危機に伴う円高傾向や、株価の下落、政治不安、天候不順や口蹄疫による食料価格の上昇、ガソリンの高騰など、景気の悪化要因が数え切れないほど多いため、状況が更に悪くなる懸念もある。
		その他レジャー施設 [球場]（経理担当）	・6月、8月にプロ野球の試合が行われるほか、人気アイドルグループのコンサートも予定されている。夏休み期間でもあるため、来場者数は例年並みに増える。
		その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設]（企画担当）	・景気は回復傾向にあるとの声も聞かれるが、観光やレジャー業界ではその実感はなく、今後も大きな変化はない。
		その他サービス [生命保険]（営業担当）	・消費者が景気の改善を実感していないため、生命保険への加入を検討する客は増えにくい。
		その他サービス [ビデオ・CDレンタル]（エリア担当）	・サッカーワールドカップが始まると、レンタル売上は例年より悪化する傾向がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（経営者）	・春の需要期に伸びがみられなかったため、今後も回復が実感されることはない。
		住宅販売会社（経営者）	・景気が徐々に良くなってきたと報じられているが、底なし沼に在る気分です全く実感がないため、今後も厳しい状況が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・欧州の金融不安に端を発して株価が下落しているほか、企業業績も回復の見込みが乏しい。政治不信も広がっているなど、消費の上向き要因が少なすぎる。
		住宅販売会社（従業員）	・モデルルームへの来客数は増加傾向にあるが、年収の低下で優良顧客が減少しているため、状況は大きく変わらない。
		住宅販売会社（総務担当）	・現状を打破する大きな施策がない限り、当面は今の状態が精一杯となる。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・金融機関の融資姿勢によっては、景気が悪化に向かう。
	やや悪くなる	一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・政府からは景気回復のための対策が何も聞かれないため、消費マインドは冷え込んでいく。
		一般小売店〔花〕（経営者）	・例年売上の低迷する時期となるほか、昨今の天候不順が悪影響を及ぼす。
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	・間もなく中元商戦の始まる時期となるが、口蹄疫の問題で業界全体が厳しい状況となる。これだけマスコミで連日報道されているため、国全体で対策を進めなければ大変な打撃となる。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・参議員選挙も終わって秋にならなければ、若干なりとも良くなるはならない。
		一般小売店〔雑貨〕（店長）	・タスポの導入で売上が下がった後も、売上の減少傾向が続いている。たばこの値上げが売上の更なる減少につながるのには必至であり、既に値上げの発表だけでも影響が出ている。
		一般小売店〔花〕（店長）	・今後状況はますます悪くなる。この不況は50年間続くという声も聞かれる。
		一般小売店〔花〕（店員）	・例年に比べて客単価、来客数共に悪化している。客の間でも節約志向が定着しているため、売上のアップは難しい。
		百貨店（商品担当）	・来客数は回復しているものの、可処分所得の減少が続いているため、客単価の低下傾向が進む。
		コンビニ（店長）	・キャンペーンや値引きセールにより、前年から何とか現状を維持しているものの、基調は少しずつ悪くなっている。明るい材料が見当たらず、天候に恵まれるといったプラスの要素に期待するしかない状態である。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・客の勤務先の業績やボーナスの支給状況について、良い話が聞かれない。
		乗用車販売店（経営者）	・大企業の業績は良くなっているものの、小売業まではまだ恩恵が回ってこない。株価が下がるなど暗いニュースも多いため、先行きも厳しい状況が続く。
		乗用車販売店（経営者）	・修理の入庫台数が激減しており、車検の予約や新車販売も少ないため、先行きはやや悪くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・沖縄の米軍基地問題や口蹄疫の問題で先行きへの不安が高まっており、為替市場でも円高傾向が進んでいる。明るい材料がなく、消費は喚起されないため、まだしばらくは悪化傾向が進む。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・株価が下がることで、消費マインドの低下が進む。
		一般レストラン（経営者）	・食品関連のトラブルは不況時によく目にするが、今回の口蹄疫の問題なども長期化しそうであり、外食産業にとっても影響が大きい。
悪くなる	商店街（代表者）	・近隣のスーパー同士の競争が激しくなっており、商店街にも悪影響が出てくる。	
	商店街（代表者）	・消費の冷え込みはまだまだ続くほか、売れる物と売れない物の差が激しくなる。また、消費はメディアによる影響を大きく受けるため、商店街でも様々なイベントを考えない限り、近隣の大手スーパーに客を取られる。	
	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・夏物衣料の売行きには期待できないほか、不安定な政治の影響で景気回復は全く進まないため、先行きが不安である。	
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（従業員）	・夏の新商品の採用も少しは決まってきたため、今後も環境に大きな変化がなければ、少しは上向き傾向となる。
		木材木製品製造業（経営者）	・既存事業に変化はないが、新規事業に関する取組が始まっており、その効果が出てくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	・住宅産業の低迷が非常に響いているものの、電機などの弱電分野や、太陽電池などのエネルギー、環境分野が今後の大きなマーケットになる期待が高まっており、先行きはやや良くなる。
		化学工業（経営者）	・売上の回復度合いは徐々に低下しているが、引き合いなどについては、年内は回復傾向が進む。
		一般機械器具製造業（経営者）	・当社の受注は原子力発電関連で納期が長い為、しばらくは良い傾向となる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・欧州向けの事業は心理的な影響を含めて先行きが懸念されるものの、中国や東南アジアの状況には活気がみられるため、先行きはやや良くなる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・取引先からの引き合いが増えてきたため、先行きはやや良くなる。
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	・夏のボーナス支給額が増加すれば、少しは上向いてくる。
		輸送業（営業担当）	・前月より荷物量が減っているものの、前年に比べれば増えている。工場向けの荷物が多い為、来月以降は良くなる。
		金融業（支店長）	・取引先の建設業者については、住宅版エコポイントの利用拡大で売上の増加傾向が続けば、経営状態も良くなる。
		経営コンサルタント	・エコポイント制度などの政策効果はほぼ頂点に達した感もあるが、子ども手当の支給の開始により、消費はまだ少し良くなる。ただし、その後は全く期待できる材料がない。
		コピーサービス業（従業員）	・マンション販売関連や教育関連全般に回復の兆しが出始めている。これらが景気回復のけん引役となれば、建設業や印刷業といった関連業界にも波及効果が出てくる。
変わらない		家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・配達量に変化がないため、今後も大きな動きはない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・少し上向きの動きを感じることもあるが、生産調整を行う取引先もあるため、全体的には変わらない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・傾向としては横ばいか、緩やかな回復に向かう。夏期賞与の支給増に伴い、売上の増加をねらう取引先からの注文が増えるものの、価格は抑えられたままであるため、大きな改善とはならない。
		金属製品製造業（総務担当）	・関西地区では新築の工事案件が減っているため、関東にシフトして受注減をカバーする状況が続く。
		電気機械器具製造業（経営者）	・景気の基礎的な部分はほとんど良くなっておらず、人件費や地価の高さもほとんど解消していない。現在の好況は部分的なもので、当社は運良くそれに乗っただけであり、自助努力が効果を上げたにすぎないため、先行きに明るい見通しは持てない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・依然として先行きは不透明である。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・マンションの設計や着工が増えているが、完成は来年の3月以降の物件が多く、今期中は完工が少ないため苦戦を強いられる。今後3か月もあまり完工物件数は増えないため、状況に変化はない。
		建設業（経営者）	・地方の景気回復の時期はまだ先である。景気回復の兆しが出てきてから、計画、設計、工事着工と進んでいくため、建設業の回復はほかの産業よりも少し遅れる。
		建設業（経営者）	・子ども手当の支給に多少期待していたが、来年度の満額支給は困難な様子であり、効果は小さい。
		輸送業（営業所長）	・夏に向けて商品は多少動くが、少し暇になれば物流費削減の要求が増えてくる。既に、数社から値下げ要請の話が寄せられている。
		通信業（管理担当）	・特に変化する要素が見当たらない。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・折込広告の注文が減少しているほか、読者の活字離れで新規購読数も伸びない。特に若い世代での活字離れが顕著であるため、見通しは厳しい。
		司法書士	・今の状態は良くないほか、案件が少なく、好材料もないことから、現状が維持できればよい。
		経営コンサルタント	・明るい材料が見当たらないため、今後も変わらない。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・見積、受注に関する話がいまだにないため、見通しは厳しい。
その他非製造業〔民間放送〕（従業員）	・放送業界全体での広告投下額の減少傾向には、なかなか歯止めが掛からない。		
やや悪くなる		食料品製造業（経理担当）	・デフレ傾向が進んでいる影響もあり、先週から売行きが悪くなっている。政治の混迷もあって先行きに明るさがみえない。
		繊維工業（団体職員）	・原材料価格の高騰分が製品価格に転嫁できず、収益が悪化する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		繊維工業（総務担当）	・出張による経費拡大が利益を圧迫しているなど、見通しは厳しい。新規の販売ルート開拓が急務となっている。
		繊維工業（総務担当）	・再び世界的に不況感が高まりつつあるため、販売量も更なる悪化が進む。
		化学工業（企画担当）	・消費者物価の低下やコンビニの業績悪化、欧州でのバター価格の上昇、マレーシアでのパーム油の生産減少など、不安要素が多い。製菓市場は全体的に低調で、複製品頼みの状態が続いている一方、小麦粉価格の低下が進む製パン市場では、クリームを多用した高額品が好調となっている。市場によって動きに差があるため、先の予測が立てにくい状態である。
		金属製品製造業（経営者）	・鋼材値上げによるコスト上昇を自社では吸収できないため、収益が悪化する。
		金属製品製造業（管理担当）	・新たな案件情報もないため、見通しは暗い。
		金属製品製造業（営業担当）	・鋼材価格が値上がりしているが、販売価格には転嫁できそうにない。
		輸送業（営業担当）	・割引セールを行っている小物商品ばかりが売れ、大型商品が売れていないため、配達件数が減る。
	悪くなる	一般機械器具製造業（設計担当）	・受注量が少し上向き可能性はあるものの、価格破壊で受注価格が下がっているため、売上の押し上げ効果はない。
		不動産業（営業担当）	・賃貸ビル、賃貸マンション共に賃料の下落が続いているため、先行きはまだまだ悪くなる。
		広告代理店（営業担当）	・3月からは月ごとに売上が落ちている。顧客企業にも広告費を増やす先はほとんどないため、先行きの見通しは厳しい。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・日ごとに先行きの見通しが立たなくなってきている。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・荷動きは前年並みであるが、原料の綿糸価格の上昇により、収益面での厳しさが加速する。
		雇用関連	良くなる
やや良くなる	人材派遣会社（支店長）		
	人材派遣会社（役員）		・求人数の増加傾向や求職数の微減傾向をみると、景気は緩やかに回復している感がある。ただし、労働者派遣法が改正されれば求人数の減る可能性が高く、雇用情勢の回復に水を差す懸念もある。
	人材派遣会社（支店長）		・一部メーカーなどで業績が回復している。現時点では、業務量の増加に余剰人員で対応しているが、2、3か月先には社内の人員だけでは足りなくなる。
	職業安定所（職員）		・仕事が戻ってきたという事業所が増えてきたが、短期の受注が多いため、先行きに不安を抱えている。求人数は緩やかな増加傾向が進むものの、正社員求人が増加するまでにはもう少し時間が掛かる。
	職業安定所（職員）		・建設業を除く主要産業で求人が増加しているほか、ターミナル駅周辺では6月に大型商業施設がオープンし、ホテル建設も進んでいる。これから商業施設の集積が進むため、雇用の改善につながる。
	民間職業紹介機関（大学担当）		・まだ不透明な状況ではあるものの、不況に対応した新たな企業のあり方や雇用形態が確立されていくため、先行きはやや良くなる。
	民間職業紹介機関（支社長）		・今期の採用計画が前年を大きく上回っている大企業もあり、全体的に回復傾向が顕著となっている。それに伴い、中堅、中小企業からの求人依頼も増加しているため、採用者数は夏場にかけてかなり増える。
変わらない	人材派遣会社（経営者）		・派遣への規制が厳しくなり、企業側が採用に慎重になるため、今後は人がかなり余ってくる。
	人材派遣会社（経営者）		・労働者派遣法の改正が審議中であるほか、雇用情勢もまだまだ厳しいため、少なくとも上半期は厳しい状況となる。
	新聞社〔求人広告〕（営業担当）		・最近の3か月を振り返ると、低位安定の状態ですべての企業が様子をみながら動いている感がある。多少は忙しいものの、受注の効率も悪化しているため、先行きの見通しは厳しい。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）		・各社の売上はL字型の推移となっており、特に関西企業の間では底打ち感が出てきている。
	職業安定所（職員）		・正社員求人が依然として少なく、特に新卒者の求人が厳しいことから、まだまだ回復している感はない。企業の間では今後も先行き不透明な状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・新規求職者が若干増加し、相談や紹介件数は増えているものの、就職件数は減少している。希望職種が不明確であったり、高齢者の相談が増えたりと、採用につながりにくいケースが多い。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・欧州の金融システム不安やユーロ安、株価の低下や中国の金融引締め、朝鮮半島情勢の緊迫化による悪影響が、雇用情勢にも出てくる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・企業の景気見通しが弱含みであり、雇用情勢の回復にはなかなかつながらない。
	悪くなる	-	-

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる	競艇場（職員）	・7月に開催するレースで集客及び売上が見込める。
	やや良くなる	一般小売店〔紙類〕（経営者）	・大河ドラマの撮影等観光客を呼ぶ良い材料が増えつつある。観光客が増えると結果的に景気は上向くが、来店客1人ひとりの財布のひもの固さが和らぐのは、しばらく先のことである。
		百貨店（営業担当）	・一部富裕層では高額商品の動きもみられ、少しずつではあるが、景気は良くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・個々のテナントの売上状況をみると、回復しつつあるところが散見できるようになっている。テナント本部も「客も買物を辛抱するのに飽きてきたのではないか、わずかな手応えを感じる」との発言をしている。
		スーパー（総務担当）	・天候にもよるが、涼味関連商品が動く状況が続きそうである。
		スーパー（管理担当）	・夏のボーナスが数年ぶりに増える。まだまだ安心はできないが、景気回復の兆しとして受け取れる。
		コンビニ（エリア担当）	・昨年の7月は雨天が多かったが、今年は例年並みの天候が見込まれ、前年比での来客数の改善が見込まれる。
		衣料品専門店（店長）	・5月は気温が低く初夏物衣料の動きが鈍かったが、長期の予報では6月から気温が上昇することから、夏物衣料の動きが良くなる。
		乗用車販売店（統括）	・ボーナスシーズンも始まり、景気が多少良い雰囲気になる。
		乗用車販売店（販売担当）	・新車購入補助金の締切りに伴い、駆け込み需要が見込まれる。
		その他小売店〔ショッピングセンター〕	・来客数が前年の実績に近づいている。
		一般レストラン（店長）	・今月に入り平日の来客が増えてきている。週末は前年とあまり変わらないが、平日が伸びているので夏に向けて期待ができる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・高速道路料金も気になるが、夏休みでファミリー層の動きに期待が持てる。
		観光型ホテル（経理総務担当）	・夏休みの入込は現時点で前年比60～70%であるが、地元の大きなイベントの開幕に合わせて増加してくる。
		都市型ホテル（従業員）	・2、3か月先の宴会の予約状況が好転している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・先の宴会の予約も順調に入り始めており、レストランでも昼のランチ利用が増えてきている。
		タクシー運転手	・売上はここ2か月前年比10%以上で推移していることや、今後当地域で、学会、自治体・地元の行事等大きなイベントが予定されていることから、近年にない伸びを示す。
		通信会社（広報担当）	・ボーナス商戦に期待が持てる。
		テーマパーク（業務担当）	・夏季イベント開催による来園者の伸びに期待が持てる。特に昨年開始し好評を得た、夏休み期間の企画を開催することで、親子連れの誘客を促進できる見込みである。
		テーマパーク（管理担当）	・入館者数が安定し、増加する見込みである。
住宅販売会社（従業員）	・客の様子で上向きの雰囲気は感じられるが、緩やかな回復になる。ただし、競合はかなり激しくなっている。		
変わらない	商店街（代表者）	・中心市街地の新規事業が開業し、少しずつ変化がみえるが、各店舗の売上に直接の関係はなく、今後の活動と既存店舗の意識改革に期待している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・子ども手当の支給で手元に金が入り、少し良くなる感じはするが、支給対象者以外の人の割合が多い点も踏まえると、不安材料が多くなっている。今後良くなる材料が見当たらず、消費者にはますます悪くなるという不安が大きく募っている。
		商店街（代表者）	・7、8月に気温が高くなっても、夏物衣料の販売期間が少ない。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	・毎年残暑が厳しく、5～10月ごろまでが長い夏場の商戦となっていることから、あまり大きく変わることはない。
		一般小売店〔印章〕（営業担当）	・人口の多い都市は一般的に収入が高いが、当地は、1人当たりの課税所得額が県内でも著しく低位で、収入が低いことから、まわりから良くなったと言われても実感はない。
		一般小売店〔酒店〕（営業）	・景気も底打ち感が出てきており、気候の変動等が例年並みであればそれなりの売上は確保できる。
		百貨店（購買担当）	・ギフトの早割を例年どおり来月から行う。かなり新しい物も入り、再び「食」が復活することを期待している。また、子ども手当についても、店全体がいろいろな取組みを行うことで、来客数が増えることを期待している。今月高級層の売上が伸びていることから、百貨店に客が戻ってきて始めている。
		百貨店（電算担当）	・店でうまいもの大会があり、予想以上の売上で前年並みとなったが、この催事がなければマイナス3%であり、固定的な売場売上の苦戦には変わりない。
		百貨店（販売担当）	・天候不順による夏物商品の売上低迷が心配されるが、子ども手当の支給開始により客の消費動向に変化があれば、少しは消費拡大に良い影響が出てくる。
		スーパー（店長）	・良くなる状況ではなく、引き続きこのままの状態を推移する。
		スーパー（店長）	・客単価は上昇しているが、客の低価格志向で1品当たりの買上金額はこれからも下がり続ける。
		スーパー（店長）	・来客数、客単価共に、実績ではここ数か月変わらない状況で推移しており、良い意味でも悪い意味でも落ち着いている。この状況を踏まえると今後もしばらくは同様の状況が続く。
		スーパー（経理担当）	・販促効果がなかなか表れず、安価な特売商品のみへの反応が多い傾向は変わらないことから、回復は遠い。
		スーパー（販売担当）	・子ども手当の支給で、少し生活にゆとりが出る家庭もあるが、高齢客の割合が高いことから、客単価が上昇しにくい。
		スーパー（経営企画）	・競合他社の新規出店や業態転換が相次ぎ、集客競争、価格競争が激しさを増しており、景気が底を打ったとしても環境の好転は期待できない。
		スーパー（管理担当）	・来客数がなかなか伸びず、常に前年96%～97%で推移している状態である。
		コンビニ（エリア担当）	・客単価が回復してきてはいるが、まだ客は安い方へ流れており、来客数が横ばいである。
		コンビニ（エリア担当）	・昨年12月に店の近くに道路が開通したり、高規格道路の部分開通があった影響で、店の前を通る道路の交通量が減少し、引いては来客数が減少する傾向が続いている。今後は今の状態が続くか、やや悪くなるのがあっても、しばらくは良い方に変わることはない。
		コンビニ（エリア担当）	・6月から子ども手当の支給で少しは期待が持てるが、景気は大きくは変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・悪くなっている状態に変化がない。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・気温が例年に比べ低めに推移しており、夏物衣料品の販売期間が短くなるとともに、これからも品物の値下げが増えることから、売上の低迷が続く。
		衣料品専門店（販売促進担当）	・婦人物の動きは良くなってきたが、紳士物の買物が減少しており、景気回復まではいかない。
		家電量販店（店長）	・今月の来客数は前年と比較すると非常に低迷しており、一時的な要因による需要を除いてここ数か月同様の状況である。そのなかで生産から消費までの抜本的な国の政策が示されるわけでもなく、また消費者目線での景気回復がみえていない状況下で3か月先を想定すると、現状より悪化することはないものの大幅な景気回復は見込めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（経営者）	・良くなるという要素がなく、政治の混迷が拍車をかけている。円高が輸出産業に与える影響が大きく、大手自動車メーカーに対しては、ユーロ安の影響が大きい。夏期ボーナスの支給及び低下を危ぶむ声が身近で聞こえており、このような状況により今とあまり変わらないが、やや悪くなる場合もある。
		乗用車販売店（統括）	・昨年の補助金効果は6月より始まっており、今年の6月以降は前年比で厳しい状況が予想される。
		乗用車販売店（サービス担当）	・当店は中古車専門なので、景気回復とともに新車の減税・補助金が無くなれば、中古車の売行きが少しは良くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・減税と補助金の効果も打ち止め感があり、このまま低い水準で安定していく。
		自動車備品販売店（経営者）	・客の購買に対する姿勢は慎重で、必要以外の物は買わない傾向は変わらず、現在の単価低下傾向が続くことから、販促施策以外に来客数の増加は望めず厳しい状況は続く。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・世界的には、ギリシャ財政危機などの影響があり、我が国も政治不安から景気上昇にはしばらく時間がかかりそうである。
		その他専門店〔海産物〕（支配人）	・来客数、購入客数が増加しても、1品単価の低下傾向は変わらない。
		その他専門店〔和菓子〕（営業担当）	・今以上の伸びは期待できず、上向き要素が見当たらない。
		その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	・個人の嗜好が十人十色となっているため、ヒット商品が出なければ現状は変わらない。
		その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（支配人）	・週末割引が継続するので良くはならないが、悪くなる要素もなく、今月から判断すると変わらず、前年比3%前後の落ち込みが見込まれる。
		都市型ホテル（総務担当）	・地元財界の利用も多く、政治経済には敏感な業種でもあり、苦戦はしばらく続く見込みである。
		旅行代理店（営業担当）	・旅行業に対する政府の景気対策がない。
		タクシー運転手	・6月に入り暖かくなれば、タクシーの利用も昼・夜共に活発化するが、県下のタクシーは5月31日から全面禁煙となることから、その影響を勘案するとマイナスになる可能性もあるが、現状とあまり変わらない見通しである。
		タクシー運転手	・給与の動向に変化がなく、今後も現在のままの状況で変わらない。
		通信会社（社員）	・販売増加につながるような新規の問い合わせ件数に変動がない。
		通信会社（企画担当）	・ボーナス商戦、サッカーワールドカップをはさむが、販売量については、若干の上向き傾向が継続する。
		通信会社（通信事業担当）	・新規契約をすると見込まれる客数が非常に少ない状況が続いており、新規加入の契約に苦労している。
		通信会社（営業担当）	・機器の更新に伴うネットワークの更新はあるものの、全体としては費用削減のなかでの更新であって、現状とあまり変わらないが、現状より下向きの傾向となっている。
		通信会社（営業担当）	・テレビ・ネット共に解約が高水準で推移している。解約理由は大手他社への乗り換えと共に、「見ない」、「使わない」による解約が多い。新規契約の伸びも鈍く、契約者数は計画比で未達となっている。
		通信会社（総務担当）	・夏場に向け消費の低迷が予想され、販売数の伸びが期待できない。
		テーマパーク（広報担当）	・高速道路料金の引下げが継続されることで、昨年から続くマイカーでの観光客の伸びは今後も期待できる。来客数は昨年並みか、少し増加の傾向で推移しているが、物販の売上が昨年よりも減少しており、全体的な売上に大きな期待はできない。
		ゴルフ場（営業担当）	・梅雨に入り、天気にも左右されるが、年々客は減少する傾向にある。
		美容室（経営者）	・景気が良くなる状況ではなく、先行きは全く分らない。
		美容室（経営者）	・客の消費動向は上向いておらず、商店街等もかなり苦戦している状況で、商店に関しては業種を問わず良い話も聞こえてこないことから、今年はこのまま推移する。
		設計事務所（経営者）	・ギリシャ財政危機、アメリカの財政赤字、中国の過熱したバブル経済、朝鮮半島問題など景気好転の材料があまりにもなく不安な状況である。
		設計事務所（経営者）	・リフォーム工事の話は少しあるが、新築物件の設計受注の予測が立っていない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		設計事務所（経営者）	・数年前と比べ、建築に関わる仕事の絶対量が激減した状態が続いている。少しでも景気の改善しそうな話題は全く聞こえてこない。
		住宅販売会社（販売担当）	・今月の展示場イベント売出への来場者数は、前年比15%減となり、今後も受注は厳しい。
		住宅販売会社（経理担当）	・景気後退感が今後も続くため、顧客の動きは悪くなる。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・客の消費意欲が一度低下すると、よほどのことがない限り上向くことは難しく、当面は厳しい状況が続く。
		商店街（代表者）	・政治的には不安定、経済的には良い指標がなく、失業率も上昇しており、消費者は将来に対する不安から、商品の買い控えや低価格志向を示しており、これがデフレ傾向に拍車をかけている。6月の子ども手当の支給は、いろいろな調査では貯金に回すという人がほとんどということだが、効果による恩恵に淡い期待を持っている。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・ますます財布のひもが固くなる。
		一般小売店〔酒店〕（経営者）	・異常気象で当地域の農作物や特産品に被害が出ており、夏から秋の収穫時期を迎え、景気は厳しい方向に向かう。また、株価大幅下落の原因の諸問題や不安材料が多く、購買意識が低調になってくる。
		百貨店（売場担当）	・人件費削減や取引先の在庫削減、倒産が予測され、前年同様の営業ができないマイナス要素が多い。
		百貨店（売場担当）	・百貨店の上期最大の売上である中元も縮小傾向にあり、在庫一斉値引き販売も以前のような爆発力は期待できず、非常に厳しい商戦が予想される。
		スーパー（店長）	・地域の自動車産業の回復がないと厳しい。小売業において良い材料が見当たらず、子ども手当についても政権の不安定さがあり、今回支給されても来期はどうなるのか先がみえず消費にはつながらない。
		コンビニ（エリア担当）	・景気の回復している業種もあるが、収入が増えたとしても、先行きの不安を抱えた状態で、消費者の財布のひもは緩まない。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・良い商品、価値ある商品を求めて来客はあるが、今後はセールを実施しないと集客が望めない。
		家電量販店（店長）	・エコポイント制度も1年以上が経過し、やや客の意識が薄れており購買につながっていない。また、天候不順により、エアコン、冷蔵庫等の白物家電の動きが非常に悪くなっている。
		乗用車販売店（店長）	・小型車の販売不振が著しく、客は安価な軽乗用車に移行しつつある。
		都市型ホテル（経営者）	・大会ものが昨年よりも減少しており、また観光団体の予約状況も前年に比べやや悪化している。
		設計事務所（経営者）	・給与面の改善がみられないので、しばらくは消費意欲の改善はみられない。
		悪くなる	スーパー（店長）
	スーパー（財務担当）		・競合他社のディスカウントへの業態変更が増えており、低価格競争がますます激しくなる。
	住関連専門店（広告企画担当）		・単価の低下が止まらず、合わせて客の動きも悪くなってきており、ダブルパンチの状況である。
	一般レストラン（店長）		・しばらく来客数の減少が続くとともに、ますますだった昼間の集客も悪くなってくる。
タクシー運転手	・当地の景気は建設業界の動向がポイントであり、これまではマイナスが続いていた。ここにきて建設業界は更に悪いようなので景気も悪くなる。		
美容室（経営者）	・客の仕事が忙しくならないと売上にはつながらない。現状からすると2～3か月先に急に忙しくなるような状況にはない。		
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	農林水産業（従業者）	・アジの水揚げシーズンだが、海水温度が低いため本来の水揚げがなく、漁港全体の活気が今一つであり今後に期待する。また、資源保護のため、沖合い底引き船は5月末から盆までの2か月半の休漁となるため、漁港はさらに寂しくなる。
		化学工業（総務担当）	・数か月先までは良好である。
		鉄鋼業（総務担当）	・在庫調整も一巡し、しばらくは堅調な受注が続くが、円高による自社製品の輸出への影響が懸念される。
		通信業（営業企画担当）	・通信関係のインフラ整備の検討をしたいとの相談は安価傾向だが継続しており、契約につながるプラスの要因となっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	食料品製造業（総務担当）	・新商品の販売で、予定商品が急に廃止となり、その代替商品を検討するなかで、市場での商品の売上に対する不安を感じており、今の状況は変わらない。
		食料品製造業（業務担当）	・身のまわりで景気の良さを感じるほどの回復はまだない。
		木材木製品製造業（経理担当）	・賞与などの本格回復は実現しない。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・大口の引き合いがなく、生産量は現状水準が継続する見込みである。
		非鉄金属製造業（経理担当）	・特段大きな動きの予兆はみられない。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きから状況は変わらない。
		一般機械器具製造業（経営企画担当）	・国内市場では底打ち感があり、売上は回復に向かっているが、海外市場は依然として需要回復の兆しがみられない。
		電気機械器具製造業（広報担当）	・引き続き受注が確保できる。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・受注動向に変化がない。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・先行き不透明で、まだまだ景気が悪くなる恐れがある。
		建設業（経営者）	・ある内装関係の業者との話で、外食関連の店舗の入替えに伴う改装工事が結構あるが、あまり利益は出ず、全体として利益を上げるような状況ではない。来年10月に山口国体等もあるが、あまり大きな期待はできない状況である。
		建設業（経営者）	・建設業の特性で、景気回復が他産業より遅れる。
		輸送業（統括）	・当社の取引先は製造業が多いので、製造業が良くなると現状維持が続く。
		輸送業（運送担当）	・よほどの景気対策でもない限り、回復するような状況ではない。
		通信業（部門長）	・具体的な景気対策もなく、現政権に対する支持率も下がり、参議院選挙以後に景気回復を期待したい。
		金融業（業界情報担当）	・ギリシャ財政危機の不安定要因はあるが、中国での販売増加が当面続き、北米も緩やかながら回復すると期待でき、全体では回復が続く。
		金融業（営業担当）	・取引先、自社の売上回復に前向きな発言があるものの、売上状況も前年をわずかに上回る程度であり、まだその回復の状況は不安定である。株価・政情が不安定であり、消費者の心理は株価等に大きく影響を受けることから、取引先の経営陣も景気回復の腰折れを懸念している。
コピーサービス業（管理担当）	・競合先の見積価格が3分の1以下で提出され落札している。労務費等は除いた価格で、仕事がないよりは良いという利益度外視の考え方である。このような状態では今後も仕事を確保することは難しく、更なる人件費削減をしなければ事業撤退しか残された道はない。		
やや悪くなる	金属製品製造業（総務担当）	・鉄の原材料費が7月から上昇するとの情報がある。得意先からの値下げ要請を4月に受けていることから、更に原材料価格が値上がりすれば、収益面にはマイナスに働く。生産量を増やし、固定費の割合を少なくしたいが、仕事量は生産能力の50%しかなく、厳しい状況は続く。	
		会計事務所（職員）	・年度末に発行した手形等の支払が夏ごろにあるが、現在の売上高の見通しでは、その際の資金繰りに苦しめられそうである。
悪くなる	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・親企業の22年度の仕事量も前年度と比べ減少しており、その上受注量もほとんど伸びていない。	
	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・円高により輸出企業も悪く、国内の消費動向も思わしくなく、全体として良くない。	
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（支店長）	・自動車業界で若干の回復の兆しがみえ始めている。
		人材派遣会社（支社長）	・主に輸出関連の製造業の企業業績が回復基調となっている。
		求人情報サイト運営（支店長）	・企業の採用意欲向上は継続する勢いであり、低下する要因は今のところ見当たらない。
変わらない	人材派遣会社（担当者）	・各企業に状況をヒアリングすると、少しは良くなっているが、あまり変わらないというところが多い。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（営業担当）	・当地域の主要産業である自動車関連の製造業からは、夏以降の製造職の人員需要の話が出始めており、やや明るい兆しがみえつつある。ただし、事務職については相変わらず横ばい傾向である。官公庁関連の需要はあるが、民間の需要は目立った動きがない。
		求人情報誌制作会社（担当者）	・様子見のスタンスは変わらない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・地場の上場企業の6割が増収になっているが、消費に結びつかず、物が動いていない状態であり、増収の企業の数が増えても雇用にあまり変化はない。
		職業安定所（職員）	・製造業を中心に短期的には仕事のある状態だが、先行きが不透明なため、求人募集する場合、正社員ではなく臨時・パートの求人を出しているとする声が多数ある。
		職業安定所（職員）	・有効求職者数は4か月連続して増加しており、4月の新規求職者数は最悪の状況であった前年同月と比べてもあまり減っていない。大型倒産こそみられないものの、失業期間が長期化し、求職者が滞留している傾向にある。
		民間職業紹介機関（職員）	・新規事業のマーケット浸透は即時性に乏しく、またマーケット自体も未熟であることから売上的大幅増は期待しにくく、雇用改善にはつながりにくい。
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	職業安定所（職員）	・飲食店のホール係、調理の求人募集では、店舗の新設、拡大などにより、人手不足感があるものの、他の業種においては、欠員補充の募集があっても、売上増や増産による人手不足感はない。

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる	コンビニ（店長）	・落ち込んでいた深夜時間帯の来客に回復が見られる。極端に減っていた飲酒の機会が回復しているためと思われる。また、夕・夜間の来客、客単価ともに他の時間帯と比べて良い結果が出ている。今まで控えていた帰宅途中の来店を再開しているように感じる。
		通信会社（管理担当）	・競合他社も含めて、市場に通信機器の新商品が投入される。
		観光名所（職員）	・ドラマ、映画の影響により、四国が注目を浴びており、今後も観光客が増える。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・観光業界がかなり潤っている。そのうえ、今夏の祭り等のイベントもあるため、観光客増加による県内消費への波及効果が見込まれる。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・夏場の観光やイベントに期待したい。
		スーパー（店長）	・昨年の6月から年末にかけては、超デフレだったが、現在の状況は、昨年ほどの厳しさはなく、昨年より必ず良くなる。ただし、マイナス要素は口蹄疫の問題で、精肉離れが懸念される。精肉関連の売上が減少しても、水産関連の売上が増加に転じれば良いが、水産でカバーできなければ、マイナスになる場合がある。
		スーパー（店長）	・低価格志向のなかでも、健康関連商品や高品質で値ごろ感がある商品は売れている。子ども手当の支給が消費に回ることを期待している。
		スーパー（統括担当）	・現時点では、買上単価がどんどん下落してきているが、最近下落幅が減ってきている。子ども手当が支給されるため、先行的な消費が生まれる。
		衣料品専門店（経営者）	・6月は賞与支給月であり、今年は特に子ども手当が支給されるので今までと違う雰囲気がある。賞与金額は前年より増加見込みであり、7月以降は大型バーゲンのシーズンに入るため期待が持てる。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・梅雨が長引けば、当業界の景気が悪くなる。逆に、空梅雨になれば、当業界の景気は良くなる。
観光型旅館（経営者）	・5月の売上状況は良くなかったが、6月の予約状況は例年より大幅に良い。7～8月はどうなるか分からないが、全体的に良くなりかけている。メーカーの売行きが良くなり、輸出も増えていることもあり、経済の基本は良くなりかけている。そのため、消費は伸びていく。		
タクシー運転手	・5月は、ゴールデンウィークや車の税金負担があったため、サラリーマンの家計を苦しめた。今年は特にそれが顕著に見えた。しかし、7～8月はそれがやや緩和される。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		通信会社（企画）	・ハイビジョン録画が本格的に普及し始めており、それに対応して機器を利用する高額サービスが今後伸びてくる。実際、ここ数カ月伸びてきている。	
		通信会社（支店長）	・新たなモデルの追加により、販売数の増加を見込んでいる。	
		競艇場（職員）	・売上の右肩下がり傾向が続いており、6月も売上減少はやむを得ないが、7月に開催予定のSGレースがプラス材料となり、好転を期待している。	
		設計事務所（所長）	・公共事業で大型の物件が少し増えてきそうである。	
	変わらない	商店街（代表者）	・消費意欲が回復する材料がない。	
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・酒類業界は夏が書き入れ時であるが、天候不順のため、消費量が見込めない。	
		百貨店（営業担当）	・今の状況から見ると、まだ先行きは分からない。	
		百貨店（営業担当）	・来客数については改善傾向がみられたが、高額品、衣料品及び雑貨、リビング用品に変化がなく苦戦している。また、食品類の売上も若干の陰りが見られた。	
		百貨店（販売促進担当）	・ボーナス時期に入ってくるが、現状のまま、買い控えが続き、貯蓄に回すケースが増えてくる。	
		百貨店（売場担当）	・政治は混迷、経済も低迷、可処分所得も低下するなかで、消費の拡大は見込めそうもない。必要なものを慎重に吟味して買うという姿勢は変わっていない。	
		スーパー（店長）	・子ども手当が6月に支給されるが、消費のほうに回ってこない。また、冷夏になると、食品・衣料の売上に影響が出るものと見込まれる。	
		スーパー（企画担当）	・景気が良くなる見通しはないが、悪くなる見通しもない。宮崎県の口蹄疫の影響も出てくるが、大きな変動はないものと見込まれる。	
		スーパー（人事）	・子ども手当などの政策は、限定的な影響に留まり、変わらないものとする。	
		コンビニ（総務）	・5月以降の見通しは不透明であり、天候や気温も期待できない。	
		衣料品専門店（経営者）	・良い情報がない。	
		衣料品専門店（副店長）	・天候が良い時は夏物商品は動くが、天候が悪い時は来店数が低い。2～3か月先は秋物シーズンになるが、あまり期待が持てそうにない。	
		家電量販店（営業担当）	・本格的なエアコン商戦を前に、出足に今一つ伸びがない。今年は気温が不安定なため、売れる期間が限られてきそうである。	
		乗用車販売店（従業員）	・10月以降の落ち込みが予想されるが、夏の増販期までは例年並みと予想される。	
		乗用車販売店（従業員）	・9月でエコカー購入補助金制度が終わるため、それ以降の販売が不透明である。	
		乗用車販売店（役員）	・受注は、まだ、エコカー購入補助金制度があるため、今月の状態が、今後2～3か月続くと考える。ただ、その後は非常に分かりづらい。	
		都市型ホテル（経営者）	・確かに、土佐・龍馬であい博で、県内の客がかなり来ているが、基幹産業が少ないためか、県内の景気の回復がみられない。	
		旅行代理店（支店長）	・6月から子ども手当が支給開始され、旅行需要喚起に好材料がある。一方、朝鮮半島の情勢悪化や株価低迷などの悪い状況もあり、先行きが全く読めない。	
		タクシー運転手	・これから先、暑くなると、近場でもタクシーに乗る人が増えると思う。しかし、現状では、夜、飲みに出る人が減っており、乗ったとしても駅やホテルまでの近いところが多く、売上が伸びる気配がない。	
		ゴルフ場（従業員）	・現状では、予約状況、来客数が悪い。将来的にも、今のままでは増えるような要因がない。	
		美容室（経営者）	・客の様子を見ても、節約志向がまだ続いている。すぐに改善される様子が見られない。	
		住宅販売会社（従業員）	・客の様子を伺うと、残業手当のカットなど、所得面で数年前より下落している様子である。今後も、予算的に厳しい状況が続くため、受注に影響が出るものと見込まれる。	
		やや悪くなる	一般小売店〔乾物〕（店員）	・中元商戦がもうすぐ始まるが、良くなる雰囲気ではない。景気が良くなる要因がない。
			衣料品専門店（総務担当）	・今月は買上客数が増え、好調に推移したが、まだまだお客様の財布のひもは固く、セール待ちのお客様が多い。今後はセール比率が高くなっていくため、客単価の下落が予想され、結果として収益が圧迫される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・ボーナスの季節を迎えるが、回復するのは大手メーカーであり、地方の企業は業績が更に厳しくなる。地上デジタル放送への移行もあと一年となり、今後、テレビの買換えが更に進んでいく。テレビ一台で家庭の食費の数か月分が出費されるため、食品の売上は厳しい状況が続く。
		タクシー運転手	・給料が全体的に減少傾向であるため、タクシー利用を控えている。観光客もツアーを利用する人が増えている。高速道路料金引下げの影響で、人は増えてもタクシー利用には繋がらない。
		設計事務所（職員）	・仕事量が減少するため、企業は、超過勤務の縮減への取り組みに着手する。そうすると、従業員は手取り給与が減ることが必至となる。経費を押さえ込む具体策が徐々に実施される。
	悪くなる	乗用車販売店（従業員） 住関連専門店（経営者）	・ガソリン価格が徐々に高くなっており、新車の受注が減少傾向にある。 ・節約意識が強いため、販売量が更に下落する。
企業 動向 関連	良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・得意先の受注状況は良くなっている。建材メーカー自体は悪いが、建築業者、プレハブ業者の受注状況は非常に良い。秋口にかけて、受注量は上昇する。
	やや良くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・太陽光発電事業は非常に順調である。会社の技術力を上げ、営業マンを増やすなどの企業努力もあるが、単月で、昨年の倍の売上が必ずある。少しパブル気味の感もあるが、着実に仕事量は増えている。また、工場設備関連の受注も順調に推移している。
		建設業（総務担当）	・耐震偽装以来、建築申請から認可までの所要日数が増え、ネックとなっていたが、今後、緩和される見通しである。所要日数は約半減されることになり、そのためロスが少なくなり、危険負担も少なくなる。
		通信業（営業担当）	・子ども手当が6月から支給開始となり、子どもが多くいる人は、「半分は貯金、半分は旅行・買物をしたい」と言っている。様々な会社が、子ども手当をターゲットにしたセール・販売施策の企画・計画をしていることから、個人消費拡大への契機になる。
		不動産業（経営者）	・以前に比べて、客からの問い合わせ、オファーが増えている。ただ、一般的には条件がまだ厳しく、成約になるケースは少ない。しかし、今後良くなる可能性がある。
	変わらない	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・現在の小売業の市況状況では、急に変化することはないものと見込まれる。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・海外向けの一部に受注の動きがあるが、全体の動向としては、しばらく時間がかかりそうである。
		電気機械器具製造業（経営者）	・円高、海外需要の低迷が続いている。
		建設業（経営者）	・2～3か月先までに受注できそうな工事が少ない。
		通信業（部長）	・受注改善傾向に向かう他動的要因が見つけにくく、購買動向は慎重である。企業保身のため、この傾向はしばらく続くものと見込まれる。
		広告代理店（経営者）	・エコカー購入補助金制度のメリットがある自動車販売会社には、販促が期待できるが、地元の多くの得意先は、広告費削減傾向が続き、今後も変わらない見込みである。
		公認会計士	・企業からの相談の中で、資金繰りに関するものが非常に多く、設備投資に関する相談はほとんどない。特に不動産の購入に関しては慎重である。このことから、不動産価格は更に下落する可能性が高いといわざるを得ないため、景気はまだ底をほう状況である。
	やや悪くなる	食料品製造業（従業員）	・受注量や発注量の低迷が続いているため、それが足を引っ張っている。
		繊維工業（経営者）	・欧州の金融不安など世界同時不況による国内株式の低迷や、政治不安などの心理的な不安が消費を抑えている。
鉄鋼業（総務・人事統括）		・原料価格が上昇している。当社は輸入原料への依存割合が大きい。為替は不透明ながらも、今後、円高進行余地に比べて円安に戻す可能性が大きい。	
悪くなる	-	-	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・行政関連の雇用施策事業で、企業の採用ニーズがより把握できるようになるため、有料の就職サイトへの参画企業は増加見込みである。
		求人情報誌製作会社（従業員）	・昨年と比較し、少しずつではあるが求人掲載件数が増加している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・一部の製造業において、来期は人手不足の予想が聞かれ出した。
	変わらない	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・高速道路料金引下げはまだしばらく続くため、観光面は好調が持続する。ただし、経済的効果は限定的である。エコカー購入補助金制度が終わりに近づくため駆け込み需要に期待したい。
		職業安定所（職員）	・エコカー購入補助金制度による自動車の販売台数向上、エコポイントによる電化製品の売上向上により、明るさが見えてきていた。しかし、為替や国内政治の不安定感が影響し、まだまだ不安要素が残る。
		民間職業紹介機関（所長）	・一部の製造業で採用を増やそうという企業もあるが、サービス業などでは、従業員を減らそうという動きがある。新卒採用を増やそうという意欲的な企業は少ない。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・月間有効求人倍率が、先月より0.04ポイント下回った。
	悪くなる	-	-

10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる	-	-	
	やや良くなる	百貨店（営業担当）	・来客数や買上率は前年を下回っており、全体的に景況感は低迷している。しかし商品単価の上昇基調等、回復の兆しがみえる。	
		百貨店（営業企画担当）	・高額品に少しずつ回復の兆しがみられる。天候不順な1か月であったが、衣料品の落ち込みがそこまでひどくなく、欲しい物は必要な分にとどまらず購入する客が増えている。	
		スーパー（店長）	・食品は精肉のウエイトが高いため、口蹄疫の影響が懸念されるが、装飾品やバッグ等、高額品が若干売れ始めてきた。買物に集中する客が多く見受けられるようになり、景気は持ち直している。	
		乗用車販売店（販売担当）	・エコカー購入補助金制度が9月までとなっており、同制度が終わる前の駆け込み需要が見込まれるため、現状よりは販売台数が若干増える。	
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・新規出店に伴い、通常の売上に加算されて売上が上がる。朝晩多少冷え込むことがあるとコーヒーの需要があり、店頭で購入する客も若干見受けられる。	
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・不安材料はあるものの、リーマンショック後のような不安感はない。冷静に、やや良くなると判断できる要素もでており、今後は良くなる。	
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・客単価の増額は今の時点では見込めないが、現在の状況を勘案すると7、8月の夏休み、お盆では人が動き、商品の販売量は増える。	
		都市型ホテル（副支配人）	・今年の7、8月は例年以上に団体客の予約があり、毎年の団体客を含めると50%以上の増加である。	
		旅行代理店（業務担当）	・予約状況を見ると、夏商戦はピークとなり、景気はやや良くなる。	
		通信会社（企画担当）	・今年のボーナス商戦は期待できる。	
		美容室（店長）	・大幅には良くならないが、客の来店が少しずつ多くなり、売上も少しずつ増加している。	
		音楽教室	・入会後しばらくすると楽器を購入する人が増える傾向にあり、今後はやや良くなる。	
		変わらない	商店街（代表者）	・宮崎の口蹄疫等の社会情勢をみると、客はそういう情報に非常に敏感になっており、景気が良くなる要素はない。景気対策はほとんど庶民には効果を表していないと判断する。
			商店街（代表者）	・政治がこのように混迷している状態で、政策も良くないなら経済もよくなることはない。子ども手当は、政治の人気とりでしかない。
			商店街（代表者）	・景気対策をしている様子も政府にないことと、個人消費、所得も上がってきてないので、将来的に上向くという要因が全くなく、今の状況がつかずか少し悪くなる。
			商店街（代表者）	・魅力がない当商店街ではこれ以上悪くなる材料が見当たらないので、景気はこのまま低調に推移する。
			商店街（代表者）	・商店街への来街者は少なく、天候不順も影響し、春物衣料等の動きが悪く、店頭販売額は前年を20%以上下回っている。
			一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・今年ほうなぎが品薄で高いが、丑の日には仕入れないわけにはいかず、あまり価格に反映できない。ただ取扱量が増えるため利益は出るが、これまでのようにはいかない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・お茶は暖かい時期に弱い商品であり、夏場の売上には期待できない。法事返礼品の注文をどれだけ受けるかで売上が決まる。1個当たりの単価が低下傾向にあるため、例年以上の売上はない。
		百貨店（売場主任）	・以前と比較すると景気は回復しつつあるが、天候不順等のマイナス要素もあり、決定的に景気を引き上げる要素が見当たらない。
		百貨店（営業担当）	・宮崎の場合は口蹄疫問題に収束がない限り、今の消費の低迷やその他商業を含む景気の低迷はこのまま続く。
		百貨店（営業担当）	・婦人ヤングや子ども関連の購買は好転してきたが、紳士服は依然厳しさが続いている。また客の必要な商品、デイリー商品以外は買わないという姿勢が続いている。一方でイベント開催で地域への集客を図り、日曜・祭日のにぎわいはあるが、平日、夕方の来客数が減少している。
		百貨店（企画）	・高額品の需要は外商の客を中心に盛り返しの兆しが出つつあるのが唯一の好要因であるが、正価商品の動きは引き続き低迷が続く。理由は、中心客層となる年収枠に該当する世帯数が相変わらず好転せず、雇用状況の影響でますます減少しているからである。可処分所得の増加が具現化しない限り、良くなる要素はない。
		百貨店（売場担当）	・売上は6月は例年通りやや減少の傾向になる。7月は天候次第ではあるが、前年実績をクリアする可能性が高い。8月は若干前年を下回る。やはり一番大きな要因は天候要因になる。選挙前は買い控えなどで売上が減少する傾向にある。今月の来客数は前年比95%と悪いが、売上は同98%弱である。売上は今後も前年比97～98%で推移していく可能性が高い。したがって現状の流れから極端に悪くなることもないが、良くなることない。
		百貨店（営業企画担当）	・都心部や一部の業界で景気回復の話聞くが、全国的に所得の減少傾向が強く、消費構造も大きく変化しており、百貨店離れの状況を呈している。特選品や呉服、貴金属など的高額品は不振が続く。一部の限定品や話題性のある商品については好調であるが、全体を押し上げるには至っていない。
		百貨店（業務担当）	・客との話から勘案すると、将来に対する不安が大きく、この何か月という間に解決する問題ではない。
		スーパー（店長）	・客の買上金額が若干増えつつあるが、買上点数の伸びはなく、依然として消費は低迷している。特に雑貨、衣料品は動かない状況にある。
		スーパー（店長）	・競合店に対抗するため、ディスカウントのスタイルをとっており、このままの調子でいけば、前年比130%で推移する。今後は安心している。
		スーパー（店長）	・参議院選挙が控えており、中元ギフト関連の単価が落ち込む。早めの展開や特典をつける販売計画をしているが、お盆商戦を含め新しい変化は見込めない状況である。
		スーパー（店長）	・企業の業績が低迷し、収入がなかなか上がらないなか、将来への先行き不安感が払拭されない。個人消費は上向き状況にはない。
		スーパー（総務担当）	・話題の商品等への反応は比較的良いが、相変わらず買い控えの傾向が続いている。加えて、天候不順も予想され、季節商品への影響が心配される。
		スーパー（企画担当）	・来客数、売上は共に冬場より若干の回復をみせてはいるが、給与、賞与の上昇は期待できず、依然として必要な物を必要な分だけ購入する傾向は継続する。また一部のディスカウントストアの強烈的な低価格攻勢もあり、現状より更なる景気回復は難しい。
		スーパー（経理担当）	・急激な落ち込みの開始から来月で1年になるが、その状態での現状維持になる。
		コンビニ（エリア担当）	・前年から改善の兆しは全く見つからず、随時、販売促進等を実施しているが効果が出ていない。3か月後は全く見通せない状況である。
		コンビニ（販売促進担当）	・毎日パンコーナーを見て回るが、客は特売商品に慣れており、3～5割引にしても飛ぶようには売れない。今買わなくても近々またあるだろうという客が増えている。安いから買うという状況から、今必要だから買うに変わっている。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・気温があまり上がらないせいか、来客数が前年より落ち込んでいる。今後の気温の上昇、天候の回復に期待するが、このままの状況であれば客単価、来客数共に伸び悩む。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当・店長）	・宮崎の口蹄疫の今後の動向が非常に気になることである。今後、拡大するようであれば九州経済は非常に大きな打撃を受ける。特に現状、宮崎の店舗ではこれまで販売が好調であった牛肉、豚肉商品が急激に売れなくなり、鶏肉が反動として非常に売れている。口蹄疫の動向次第で、今後の経済状況は変わる。
		衣料品専門店（店長）	・低温の日が続き、衣料に動きがみえない。今後も厳しい状況が続く。
		衣料品専門店（店員）	・現在、客の半分以上が常連客であり、急に多くなったり少なくなったりしない。売上は前年並みという状況が続く。
		衣料品専門店（店員）	・子ども手当の支給は景気回復には全く関係ないようで、消費者の財布のひもは依然として固い。セールはマンネリ化しており、春・夏物商戦、秋の立ち上がりは非常に厳しい状況が予想される。
		家電量販店（店員）	・天候が回復するにしたがって、エアコンなど季節商品は動くが、テレビの動向がどうなるか分からない状況である。7月のボーナス商戦で盛り上がるのが予想されるが、普及率も高まっており、2台目需要が多く、単価が大きく落ちる状況にある。前年並みの金額を稼げるか不透明なところである。
		家電量販店（店員）	・家電の売上の中心はやはり今も薄型テレビであるが、6月のサッカーワールドカップ関連消費の動きが今一つ盛り上がり欠けている。エコポイントの関係で消費が伸びる要素はあるが、メーカーの供給が追いついていない状況となっており、現状からするとあまり変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・客の動きが鈍く、来客数が少ない。今後もこの厳しい状況が続く。
		乗用車販売店（総務担当）	・今期9月までは、エコカー補助金が購買意欲を喚起し、新車販売台数は好調を維持する。
		住関連専門店（経営者）	・毎月行っているキャンペーンの動きは少しずつ回復しているが、依然として来客数、客単価は共に厳しい。これから夏場にかけて置き家具業界は相変わらず厳しい状況となる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の小売価格は安定しているが、やや高値で推移している。客の節約志向を感じることはないが、これ以上の燃料油価格の上昇は需要の減退をまねかないか危惧する。夏場の旅行シーズンの総合的な需要には期待する。
		その他専門店〔書籍〕（代表）	・客の様子からデフレや節約ムードが完全に定着しており、インターネットの普及がそれを後押ししている。書籍の販売も厳しい状況が続く。
		一般レストラン（経営者）	・口蹄疫の影響で6、7月の予約状況は閑散たるものである。今のところホテルの予約は入っているが、口蹄疫が落ち着かない限り、売上は落ちると見込んでいる。予定されていたイベントもなくなったり、延期になったりしている。
		一般レストラン（スタッフ）	・店に盛り上がりがない。客も静かな感じで、来客数も少ない。今後もこの状況が続く。
		スナック（経営者）	・常連客の来店頻度が落ちており、それが戻らない限り売上の回復は難しい。
		その他飲食〔居酒屋〕（店長）	・来年3月の新幹線開業を目処に店の進退を考えている。努力はするが客あつての店なので苦境の最中である。
		観光ホテル（総務担当）	・6、7月の予約状況をみても、好材料はみられない。6月は宮崎の口蹄疫の影響で婚礼が1件延期になっている。
		旅行代理店（従業員）	・サッカーのワールドカップは現地観戦よりお茶の間観戦になりそうである。一方、上海万博や平城遷都1300年祭は、メディアの露出も多くなり徐々に予約が増えている。総合すると、景気は変わらない。
		タクシー運転手	・売上が大変悪く、全体的に2割程度落ちている。運転手は毎日大変過酷な競争をしている。依然としてあまり明るい材料がない。
		タクシー運転手	・参議院選挙の前後は人の動きが制限されるので、このままの状態が続く。
		通信会社（営業担当）	・当地域は現在の口蹄疫が収束しない限り、しばらくは悪い状況が続く。
		テーマパーク（職員）	・口蹄疫問題が解決し、延期になっていたイベントや会合が再開され、一般観光客への影響がなくなるまでまだ時間がかかる。しかし例年通り、夏の集客プランについては仕掛け、集客を図るので変わらない。
		ゴルフ場（従業員）	・6～8月は回復の兆しはあるが、ゴルフ場の入場者数の動向には直接の結びつきは望めない。調子が良い企業のコンペに期待する。
		ゴルフ場（支配人）	・料金の安値傾向は変わらず、種々の集客施策を実施し、現状維持が限度である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・売上の主となる介護報酬の改定は2年後であるため大幅な売上増は見込めない。また医療報酬改定によりサービス提供の対象となる客の個人負担が増加するなかで、今より好転する材料がない。ただし悪化する材料もない。
		設計事務所（所長）	・今手持ちの仕事がないということは、3か月先の成約はあり得ない。厳しい状況が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・土地取引の需要がない。また、現政権の景気対策が今後どうなるか分からず、混迷した状態では、土地投資が少なくなるので、景気はあまり変わらない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・宮崎では口蹄疫の非常事態宣言が出され、全てのイベントや旅行関係でキャンセルが相次いでいる。経済状況はますます厳しくなる。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・口蹄疫の影響を少しではあるが受けている。購買心をそそるような政策もなく、口蹄疫が落ち着くまで消費の低迷が続く。今後かなり厳しい状況にある。
		スーパー（総務担当）	・ギリシャに端を発した金融不安と民主党政権の混乱で客は将来に対する不安を抱いており、今後、消費者の購買力そのものが鈍化する。
		衣料品専門店（総務担当）	・当地においては、観光関連以外で、状況が好転する材料は見当たらない。また客の中には、株価の低迷により富裕層において含み損等を抱えた客が多く、高額品の販売動向が懸念される。
		高級レストラン（経営者）	・1～3月は大分の特産ぶぐの問い合わせが多く、良い期間であった。しかし5月は城下かれい、関あじ等の時期になるが、現在のところホームページを見ての予約が少なく、1～3月に比べると動きが鈍くなっている。ホームページを見て、個人客が少しずつ来ていたが、最近はほとんど社用関係である。
		観光型ホテル（スタッフ）	・7月に選挙があるため宴会が減る。例年選挙時は宴会が減少する。
		タクシー運転手	・ホテルやゴルフ場のキャンセルが多くなっている。県外の人が動かない。
		通信会社（業務担当）	・6月は夏季に向けての新商品発売やキャンペーンで市場の盛り上がり期待したいが、一部ユーザーのみの買換えにとどまり、需要は変わらず落ち込み、販売数はかなり減少する。
		悪くなる	衣料品専門店（店長）
	高級レストラン（専務）		・チェーン店のように単価をどんどん安くして客にたくさん利用してもらう店とは形態が少し異なるため、厳しい。会社の利用が多く、価格、質、食材を削るわけにはいかない。参議院選挙が終わって景気が上向かないと良くならない。
	企業動向関連	良くなる	-
やや良くなる			家具製造業（従業員）
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・6月は四半期締め企業もあり、例年予測より受注量が増える可能性がある。
		建設業（社員）	・官公庁の発注見通しも発表され期待は膨らむ一方だ。ただ依然として競争は激化している。受注に向けての積算力の強化に努力を怠らないよう準備をする必要がある。
		金融業	・取引先の製造業は下半期の状況がみえてきたが、当面は現状より受注が落ち込むとは考えられない。中国向けを中心に順調な生産状況である。世界的な金融不安や為替相場は、中小企業において、現在のところ影響はない。小売業、サービス業も安定した業況を保っていく。
		金融業（調査担当）	・取引先の鉄鋼や自動車産業の基幹産業は稼働率が上昇し、需給ギャップはあるものの、マインドの改善は進んでいる。
変わらない		農林水産業（経営者）	・口蹄疫の影響は長くは続かない。梅雨明けの7、8月は居酒屋等を中心にかなり期待できる。ただ冷夏になると、消費は低迷する。
		農林水産業（従業者）	・特に和牛を中心にデフレの影響が続いており、高級肉については厳しい状況である。価格も下がっており、口蹄疫の影響もあり、しばらくは厳しい状況が続く。
		食料品製造業（経営者）	・口蹄疫の影響で観光客が減少するなど、良い材料がない。しかしながら前年同時期と比較すると売上の減少率は若干縮小しており、景気回復への期待感はある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・陶磁器業界は夏場という厳しい時期を迎えるが、今年は価格を抑えて出したことで受注数量は例年より良い。価格の面で犠牲を払っているのが全体的にはあまり変わらない。この夏場を乗り切るのは厳しいという同業者もいる。		
		一般機械器具製造業（経営者）	・客の声として、将来見通しが不透明であり、慎重さがうかがえる。		
		一般機械器具製造業（経営者）	・自動車以外の取引先の受注状況が低迷しており、現在の受注状況が改善することは考えられない。		
		電気機械器具製造業（経営者）	・半導体関連は非常に安定した状況で推移しており、ここに来て変動はない。先行きは安定した状況が堅持できる。特にリードフレーム関連、精密機械関連は堅調である。		
		電気機械器具製造業（経営者）	・次世代のエネルギーとしての太陽光発電に新しい風が期待でき、良くはなる。短期的にはまだ予測できない。		
		輸送業	・国内に明るい材料が見受けられない。燃料も高騰しており、厳しい状況は依然変わらない。		
		輸送業（総務担当）	・貨物全体の荷動きが悪くなっている。荷動きの良い新種があればよいが、今の状態がしばらく続く。		
		通信業（職員）	・情報通信工事に関しては、今年度中の受注量は近年になく好調であるが、建設業や設備業は非常に厳しい状況が続いている。		
		金融業（営業職涉外係）	・取引先の様子をみると、大企業を中心として企業業績は底固いものがあるが、政局も不安定で、かつ欧州に端を発した金融不安もすぐには払しょくできないため、当面景気は横ばいの動きとなる。		
		金融業（得意先担当）	・前向きな借入は現状ではない。金融機関側から既存借入金の元減している分について、折り返しの提案を行う等金融機関側からの提案に応じて借入を検討するといった企業が大半である。そういった状況はしばらく続き、当面は現状維持となる。		
		金融業（営業担当）	・目の前の固定費支払のため日々営業をする事業主が大半であり、前向きな投資の話がほとんど出てこない。		
		不動産業（従業員）	・商業施設の売上状況は前年並みではあるものの、回復基調となっている。		
		広告代理店（従業員）	・新聞折込枚数が前年比99%とやや減少幅は少なくなっている。今後、短期的には前年並みで推移する。いずれにしても下げ幅は縮小しているが、増加するにはまだ時間がかかる。		
		やや悪くなる		広告代理店（従業員）	・5月が前年割れをしており、この状況は8月までは続く。
				経営コンサルタント	・取引先の企業は業績が悪く、新しいことへの取組みが減少している。守りの姿勢に入っており、仕事は増えない。当分はこの状況が続く。
経営コンサルタント（代表取締役）	・問い合わせや見積り提出件数が大きく変化していない。				
鉄鋼業（経営者）	・4月以降新規の引合いや契約数が大幅に減少し、5月に入ってから引き合い、成約共に閑散としている。問題は建設需要そのものが落ち込んだままで、回復していないことである。				
悪くなる		金属製品製造業（企画担当）	・鉄鋼をはじめとする材料の値上がりりが収益を圧迫しかねない状況である。		
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・3か月先の生産計画をみる限り、今後はやや悪くなる。		
		その他サービス業[物品リース]（従業員）	・若干の景気回復、設備投資の下げ止まりがやっとみられ始めたが、ギリシャなど欧州景気の下振れやそれに端を発した国内株価の大幅な低迷など、内外環境の悪化が顕著になっている。地方景気は更に厳しさを増すと見込む。		
雇用関連	良くなる	建設業（従業員）	・住宅着工率が伸び悩んでおり、個人も含め投資に消極的である。また、マンション建設の低迷など景気回復の兆しがみられない。		
		その他サービス業[設計事務所]（代表取締役）	・市町村の住民向けの様々な分野のアンケート調査や計画策定は、前年度から失業者の緊急雇用の補助金を活用して作成しているケースが多くみられるが、これも今年度で終了する見通しである。コンサルタントに委託して業務を発注することが更に減少する。		
雇用関連	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・中元時期となり、平常時では対応できない業務が出てくるため、少しは求人が出る。		
		民間職業紹介機関（支店長）	・夏からの年度後半の見通しはまだ立たないが、オーダー数や新規登録者数等は少しずつであるが上昇しつつある。		
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・例年であれば中元シーズンとなり、食品メーカーや物流関係、流通関係の求人が活発になる。消費の低迷により例年通り期待ができるかは不明である。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕	・前年比でみれば回復はしているが、総量として増えていく傾向はみられない。
		職業安定所（所長）	・雇用情勢は依然として厳しい状況が続いている。有効求人倍率は平成21年度右肩上がりに緩やかに上昇し、一旦回復の兆しがみえつつあったが、平成22年4月で0.39倍台と前年同月比を0.03ポイント下回るなど、依然として先行き不透明感がある。
		職業安定所（職員）	・新規求人数が前年同月比47.9%の増加となった。明るい材料ではあるが、新規求職者数も大幅な増加を示し、月間有効求職者数も高止まりしているため、本格的な景気回復が否かは分からない。
		職業安定所（職員）	・政府の緊急雇用対策の効果がはっきり表われていない。
		職業安定所（職員）	・求人数の推移、窓口及び職員による企業訪問等の状況をみると、依然厳しい経営状況にある企業も多く、景気の状態は不透明である。
		学校〔大学〕（就職担当者）	・求人の拡大につながるような材料はない。平成23年3月卒対象の求人活動はピークを過ぎており、秋採用の期待は難しい。
	やや悪くなる		
	悪くなる	人材派遣会社（社員）	・緊急雇用対策も意味の無いばらまきになっている感があり、本来の企業競争力の持ち直しにはなっていない。体力が続かない企業から閉塞感が出ており、今後も厳しい状況が続く。

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	百貨店（営業担当）	・6月は子ども手当の支給開始や、サッカーワールドカップの開催などの明るい話題もあり、また景気が回復に向かっていくという経済指数のニュースも報道されるようになるなど、市場のムードもやや消費に関して積極的な姿勢が出てきたように感じる。
		コンビニ（経営者）	・インターハイによる来客数増が見込める。
		コンビニ（エリア担当）	・ゴールデンウィークにおける観光客の伸張は明るい兆しである。首都圏における景気回復の傾向が、観光客増の形で沖縄に反映されることや、6月に給付される子ども手当にも期待する。
		衣料品専門店（経営者）	・アメリカの金融問題などを始め、日本にも景気の影響を及ぼした様々な問題から数年が経ち、世の中の人々が不景気慣れした上に、節約に対する飽きが来ている感がある。消費自体は楽しいことであり、不景気のなかでも工夫しながらお金を上手に使う傾向は続き、今年はこれからもっと良くなるものと推測される。
		通信会社（店長）	・ボーナス商戦に合わせたキャンペーンや新機種の発売により、期待できる。
		通信会社（店長）	・まだ良くないが、最近の傾向からは、購入動機があれば前年よりは活発な動きがあると感じられる。6月以降は新商品の発売のほか、子ども手当や沖縄での高速道路無料化などもあるので期待が持てる。
	変わらない	観光名所（職員）	・5月はゴールデンウィーク期間外も前年並みの利用者数である。7月から8月にかけては、インターハイが開催されることから、ここ2、3か月は沖縄への入域客数は前年比で増加することが予想される。
		スーパー（販売企画担当）	・子ども手当が6月より支給されることになり、若干の期待はあるが、景気回復とまでは行かない。
		コンビニ（エリア担当）	・天候要因やインターハイ等のイベントによる特需で、客数は増えるが、一過性のもので景気を押し上げるものではない。購買意欲は上らず、客単価も1%前後下がった状況が続く。
衣料品専門店（経営者）		・回遊客が、前年と比べて少ない。購買意欲も以前ほどではない状況であり、これからもあまり変わらない。	
やや悪くなる	その他専門店〔楽器〕（経営者）	・夏祭りやインターハイに期待したいが、デフレスパイラルによる長期的な不景気感と参議院選挙で景気は良くはならない。	
	観光型ホテル（総支配人）	・インターハイなどの一過性のイベントによる集客はあるが、それでも前年比15%前後の落ち込みが予想される。景気回復基調にあるといわれるが、実感としては前年以上に厳しい状況になる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル(マーケティング担当)	・予約受注が非常に厳しい状況であり、今月よりも販売が伸びないことが予測される。また上海万博、平城遷都1300年祭といった他地域のイベントが多数あることや、日経平均株価が今年の最安値を記録したりと、経済情勢も厳しい様相が予測されることから、今後の旅行需要が収縮すると見られる。
	悪くなる	商店街(代表者)	・中心商店街のエリアは観光土産店が多くなっており、同業者で客を奪い合っている。客の購買力も落ちているようで、危機的状況に陥っている。地域の消費動向も大変落ち込んでいる。地元客は外部の大型店に流れていく。
		その他飲食[居酒屋](経営者)	・街全体の動きは渋滞の状況などから、良くなってきているように感じるが、飲食業界はまだ冬の時代が続く。外食回数や単価の低下、生鮮品の値上げ、求人難、分煙など、対処しなければならない課題が多い。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業(管理部門)	・受注量が増える見込みである。
		通信業(営業担当)	・首都圏からの受注案件の話が多少出始めている。
	変わらない	窯業・土石製品製造業(経営者)	・建設業の受注高は、公共・民間とも前年比減少、先行きも横ばいの見通しである。
		建設業(経営者)	・引き合い件数及び相談のための来社件数が足踏み状態である。
		輸送業(営業担当)	・全国的に景気は回復傾向にあると見られるが、県内についてはその影響を受ける時期が遅れることもあり、2、3か月で目に見えて景気が回復することは無い。
		輸送業(代表者)	・全地区とも季節要因を除いては、好調に推移する。4月から始まった生コンの規制強化も、目立った影響は出ていない。
		広告代理店(営業担当)	・広告業界の現状としては、国、県、市町村の単発的な補助事業に依存する傾向が続いているため、先行きが不透明な状況である。やはり、県民の消費支出が成長して民間企業の販促投資が活発化するまでは厳しい状況と言える。
		会計事務所(所長)	・まだまだ国内景気の回復には程遠い。客単価が上がるのは、指標等で景気回復が目に見えるようになってからでないといけない。
やや悪くなる	-	-	
悪くなる	-	-	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社(営業担当)	・求人企業も増加しており、求人広告に使う費用も増えてきている。業界でもデータでは上向きになってきている。
		職業安定所(職員)	・沖縄県の完全失業率の上昇が止まり、前月、今月共に8.0%と同値で推移している。今後は、減少が期待される。
	変わらない	-	-
	やや悪くなる	学校[専門学校](就職担当)	・県外求人は前年並みに獲得できているが、県内求人数が伸び悩んでいる。県内景況は前年より芳しくない。良くも悪くも1~2年程のタイムラグで県外からの影響を受けると考えると、今年度は前年度より悪くなる傾向にある。
悪くなる	-	-	